

歴代志下

第一章 ダビデの子ソロモンはその国に自分の地位を確立した。その神、主が共にいまして彼を非常に大いなる者にされた。

ソロモンはすべてのイスラエルびと、すなわち千人の長、百人の長、さばきびとおよびイスラエルの全地のすべてのつかさ、氏族のかしらたちに告げた。三そしてソロモンとイスラエルの全会衆はともにギベオンにある高き所へ行った。主のしもべモーセが荒野で造った神の会見の幕屋がそこにあつたからである。四しかし神の箱はダビデがすでにキリアテ・ヤリムから、これのために備えた所に運び上らせてあつた。ダビデはさきに、エルサレムでこれのために天幕を張って置いたからである。五またホルの子であるウリの子ベザレルが造った青銅の祭壇がその所の主の幕屋の前にあり、ソロモンおよび会衆は主に求めた。六ソロモンはそこに上って行って、会見の幕屋のうちにある主の前の青銅の祭壇に燔祭一千をささげた。

七その夜、神はソロモンに現れて言われた、「あなたに何を与えようか、求めなさい」。八ソロモンは神に言った、「あなたはわたしの父ダビデに大いなるいづくしみを示

し、またわたしを彼に代つて王とされました。九主なる神よ、どうぞわが父ダビデに約束された事を果してください。あなたは地のちりのような多くの民の上にわたしを立てて王とされたからです。一〇この民の前に出入りするこののできるように今わたしに知恵と知識とを与えてください。だれがこのようないかなるあなたの民をさばくことができましようか。二神はソロモンに言われた、

「この事があなたの心にあつて、富をも、宝をも、誉をも、またあなたを憎む者の命をも求めず、また長命をも求めず、ただわたしがあなたを立てて王としたわたしの民をさばくために知恵と知識とを自分のために求めたので、三知恵と知識とはあなたに与えられている。わたしはまたあなたの前の王たちの、まだ得たことのないほどの富と宝と誉とをあなたに与えよう。あなたの後の者も、このようなものを得ないでしよう。四それからソロモンはギベオンの高き所を去り、会見の幕屋の前を去つて、エルサレムに帰り、イスラエルを治めた。

五ソロモンは戦車と騎兵とを集めたが、戦車一千四百両、騎兵一万二千人あつた。ソロモンはこれを戦車の町と、エルサレムの王のもとに置いた。六王は銀と金を石のようにエルサレムに多くし、香柏を平野のいちじく桑のように多くした。七ソロモンが馬を輸入したのはエジプトとクエからであつた。すなわち王の貿易商人がクエから代価を払って受け取つて来た。八彼らはエジブ

トから戦車一両を銀六百シケルで輸入し、馬一頭を銀百五十で輸入した。同じようにこれらのものが彼らによってヘテびとのすべての王たち、およびスリヤの王たちにも輸出された。

第二章

一 さてソロモンは主の名のために一つの宮を建て、また自分のために一つの王宮を建てようと思つた。二 そしてソロモンは荷を負う者七万人、山で石を切り出す者八万人、これらを監督する者三千六百人を数え出した。三 ソロモンはまずツロのヒラムに人をつかわして言わせた、「あなたはわたしの父ダビデに、その住むべき家を建てるために香柏を送られました。どうぞ彼にされたように、わたしにもして下さい。四 見よ、わたしはわが神、主の名のために一つの家を建て、これを聖別して彼にささげ、彼の前にこうばしい香をたき、常供のパンを供え、また燔祭を安息日、新月、およびわれらの神、主の定め祭に朝夕ささげ、これをイスラエルのながく守るべき定めにしようとしています。五 またわたしの建てる家は大きな家です。われらの神はすべての神よりも大いなる神だからです。六 しかし、天も、諸天の天も彼を入れることができないのに、だれが彼のために家を建てることができましょうか。わたしは何者ですか、彼のために家を建てるというのも、ただ彼の前に香をたく所に、ほかならないのです。七 それで、どうぞ金、銀、青銅、鉄の細工および紫糸、緋糸、青糸の織物にく

わしく、また彫刻の術に巧みな工人ひとりをわたしに送って、父ダビデが備えておいたユダとエルサレムのわたしの工人たちと一緒に働かせてください。八 またどうぞレバノンから香柏、いとすぎ、びやくだんを送ってください。わたしはあなたのしもべたちがレバノンで木を切ることをよくわきまえているのを知っています。わたしのしもべたちも、あなたのしもべたちと一緒に働かせ、九 わたしのためにたくさん材木を備えさせてください。わたしは建てる家は非常に広大なものですから。一〇 わたしは木を切るあなたのしもべたちに砕いた小麦二万コル、大麦二万コル、ぶどう酒二万バテ、油二万バテを与えます」。

二 そこでツロの王ヒラムは手紙をソロモンに送って答えた、「主はその民を愛するゆえに、あなたを彼らの王とされました」。三 ヒラムはまた言った、「天地を造られたイスラエルの神、主はほむべきかな。彼はダビデ王に賢い子を与え、これに分別と知恵を授けて、主のために宮を建て、また自分のために、王宮を建てることをさせられた」。

三 いまわたしは達人ヒラムという知恵のある工人をつかわします。四 彼はダンの子孫である女を母とし、ツロの人を父とし、金銀、青銅、鉄、石、木の細工および紫糸、青糸、亜麻糸、緋糸の織物にくわしく、またよくもろもろの彫刻をし、意匠を凝らしてもろもろの工作をし

ます。彼を用いてあなたの工人およびあなたの父、わが主ダビデの工人と一緒に働かせなさい。一五それでいまわが主の言われた小麦、大麦、油およびぶどう酒をそのしもべどもに送ってください。一六あなたの求められる材木はレバノンから切りだし、いかに組んで、海からヨツバに送ります。あなたはそれをエルサレムに運び上げなさい。

一七そこでソロモンはその父ダビデが数えたようにイスラエルの国にいるすべての他国人を数えたが、合わせて十五万三千六百人あった。一八彼はその七万人を荷を負う者とし、八万人を山で木や石を切る者とし、三千六百人を民を働かせる監督者とした。

第三章

一ソロモンはエルサレムのモリアの山に主の宮を建てることを始めた。そこは父ダビデに主が現れられた所、すなわちエブスびとオルナンの下にダビデが備えた所である。二ソロモンが宮を建て始めたのは、その治世の四年の二月であつた。三ソロモンの建てた神の宮の基の寸法は次のとおりである。すなわち昔の尺度によれば長さ六十キュビト、幅二十キュビト、四宮の前の廊は宮の幅に従つて長さ二十キュビト高さ百二十キュビトで、その内部は純金でおおつた。五またその拝殿はいとすぎの板で張り、精金をもつてこれをおおい、その上にしゅろと鎖の形を施した。六また宝石をはめ込んで宮を飾つた。その金はパルワイムの金であつ

た。七彼はまた金をもつてその宮、すなわち、梁、敷居、壁および戸をおおい、壁の上にケルビムを彫りつけた。八彼はまた至聖所を造つた。その長さは宮の長さにしたがつて二十キュビト、幅も二十キュビトである。彼は精金六百タラントをもつてこれをおおつた。九その釘の金の重さは五十シケルであつた。彼はまた階上の室も金でおおつた。

一〇彼は至聖所に木を刻んだケルビムの像を二つ造り、これを金でおおつた。二ケルビムの翼の長さは合わせて二十キュビトあつた。すなわち一つのケルブの一つの翼は五キュビトで、宮の壁に届き、ほかの翼も五キュビトで、他のケルブの翼に届き、三他のケルブの一つの翼も五キュビトで、宮の壁に届き、ほかの翼も五キュビトで、先のケルブの翼に接してゐた。三これらのケルビムの翼は広げると二十キュビトあつた。かれらは共に足で立ち、その顔は拝殿に向かつてゐた。四ソロモンはまた青糸、紫糸、緋糸および亜麻糸で垂幕を造り、その上にケルビムの縫い取りを施した。

一五彼は宮の前に柱を二本造つた。その高さは三十五キュビト、おのおのの柱の頂に五キュビトの柱頭を造つた。一六彼は首飾のような鎖を造つて、柱の頂につけ、さくろ百を造つてその鎖の上につけた。一七彼はこの柱を神殿の前に、一本を南の方に、一本を北の方に立て、南の方のをヤキンと名づけ、北の方のをボアズと名づけた。

第四章

「ソロモンはまた青銅の祭壇を造った。

その長さ二十キュビト、幅二十キュビト、高さ十キュビトである。二彼はまた海を鑄て造った。縁から縁まで十キュビトであつて、周囲は円形をなし、高さ五キュビトで、その周囲は綱をもつて測ると三十キュビトあつた。三海の下には三十キュビトの周囲をめぐるひさごの形があつて、海の周囲を囲んでゐた。そのひさごは二並びで、海を鑄る時に鑄たものである。四その海は十二の牛の上に置かれ、その三つは北に向かい、三つは西に向かい、三つは南に向かい、三つは東に向かつてゐた。海はその上に置かれ、牛のうしろはみな内に向かつてゐた。五海の厚さは手の幅で、その縁は杯の縁のように、ゆりの花に似せて造られた。海には水を三千バテ入れることができた。六彼はまた物を洗うために洗盤十個を造つて、五个を南側に、五个を北側に置いた。その中で燔祭に用いるものを洗つた。しかし海は祭司がその中で身を洗うたのであつた。

七彼はまた金の燭台十個をその定めに従つて造り、拝殿の中の南側に五个、北側に五个を置き、八また机十個を造り、神殿の中の南側に五个、北側に五个を置き、また金の鉢百を造つた。九彼はまた祭司の庭と大庭および庭の戸を造り、その戸を青銅でおおつた。十彼は海を宮の東南のすみにすえた。

二ヒラムはまたつぼと十能と鉢とを造つた。こうして

ヒラムはソロモン王のため、神の宮の工事を終へた。

三すなわち二本の柱と玉と、柱の頂にある二つの柱頭と、柱の頂にある柱頭の二つの玉をおおう二つの網細工と、三その二つの網細工のためのさくる四百、このさくるはおのおの網細工に二並びにつけて、柱の頂にある柱頭の二つの玉を巻いてゐた。四彼はまた台と台の上の洗盤と、二一つの海とその下の十二の牛を造つた。五つぼ、十能、肉さしなどすべてこれらの器物を、達人ヒラムはソロモン王のため、主の宮のために、光のある青銅で造つた。六王はヨルダンの低地で、スコテとゼレダの間の粘土の地でこれを鑄た。七このようにソロモンはこれらのすべての器物を非常に多く造つたので、その青銅の重量は、量ることができなかった。

八こうしてソロモンは神の宮のすべての器物を造つた。すなわち金の祭壇と、供えのパンを載せる机、九また定めのように本殿の前で火をともし純金の燭台と、そのともしび皿を造つた。十その花、ともしび皿、心かきは精金であつた。三また心切りばさみ、鉢、香の杯、心取り皿は純金であつた。また宮の戸、すなわち至聖所の内部の戸および拝殿の戸のひじつぼは金であつた。

第五章

一こうしてソロモンは主の宮のためにしたすべての工事を終へた。そしてソロモンは父ダビデがささげた物、すなわち金銀およびもろもろの器物を携えて行つて神の宮の宝蔵に納めた。

ニソロモンは主の契約の箱をダビデの町シオンからかつぎ上ろうとして、イスラエルの長老たちと、すべての部族のかしらたちと、イスラエルの人々の氏族の長たちをエルサレムに招き集めた。三イスラエルの人々は皆七月の祭に王のもとに集まった。四イスラエルの長老たちが皆きたので、レビびとたちは箱を取り上げた。五彼らは箱と、会見の幕屋と、幕屋にあるすべて聖なる器をかつぎ上った。すなわち祭司とレビびとがこれらの物をかつぎ上った。六ソロモン王および彼のもとに集まったイスラエルの会衆は皆箱の前で羊と牛をささげたが、その数が多くて、調べることも数えることもできなかった。七こうして祭司たちは主の契約の箱をその場所にかつぎ入れ、宮の本殿である至聖所のうちのケルビムの翼の下に置いた。八ケルビムは翼を箱の所の上に伸べていたので、ケルビムは上から箱とそのさおをおおった。九さおは長かったので、さおの端が本殿の前の聖所から見えた。しかし外部には見えなかった。さおは今日までそこにある。一〇箱の内には二枚の板のほか何もなかった。これはイスラエルの人々がエジプトから出て来たとき、主が彼らと契約を結ばれ、モーセがホレブでそれを納めたものである。一二そして祭司たちが聖所から出たとき(ここにいた祭司たちは皆、その組の順にかかわらず身を清めた。三またレビびとの歌うたう者、すなわちアサフ、ヘマン、エドトンおよび彼らの子たちと兄弟たちはみな

亜麻布を着、シンバルと、立琴と、琴をとって祭壇の東に立ち、百二十人の祭司は彼らと一緒に立ってラッパを吹いた。三ラッパ吹く者と歌うたう者とは、ひとりのように声を合わせて主をほめ、感謝した。そして彼らがラッパと、シンバルとその他の楽器をもって声をふりあげ、主をほめて

「主は恵みあり、

そのあわれみはとこしえに絶えることがない」と言ったとき、雲はその宮すなわち主の宮に満ちた。祭司たちは雲のゆえに立って勤めをすることができなかった。主の栄光が神の宮に満ちたからである。

第六章 「そこでソロモンは言った、

「主はみずから濃き雲の中に住まおうと言われた。

二しかしわたしはあなたのために高き家、とこしえのみすまいを建てた」。

三そして王は顔をふり向けてイスラエルの全会衆を祝福した。その時イスラエルの神、主はほむべきかな。主は口を言った、「イスラエルの神、主はほむべきかな。主は口をもつてわが父ダビデに約束されたことを、その手をもつてなし遂げられた。すなわち主は言われた、五わが民をエジプトの地から導き出した日から、わたしはわが名を置くべき家を建てるために、イスラエルのもろもろの部族のうちから、どの町をも選んだことがなく、また他のだれをもわが民イスラエルの君として選んだことがな

い。六わが名を置くために、ただエルサレムだけを選び、またわが民イスラエルを治めさせるために、ただダビデだけを選んだ。七イスラエルの神、主の名のために家を建てることは、父ダビデの心にあった。八しかし主は父ダビデに言われた、『わたしの名のために家を建てることはあなたの心にあった。あなたの心はこの事のあったのは結構である。九しかしあなたはその家を建ててはならない。あなたの腰から出るあなたの子がわたしの名のために家を建てるであろう。』一〇そして主はそう言われた言葉を行われた。すなわちわたしは父ダビデに代って立ち、主が言われたように、イスラエルの位に座し、イスラエルの神、主の名のために家を建てた。二わたしはまた、主がイスラエルの人々と結ばれた主の契約を入れた箱をそこに納めた。

三ソロモンはイスラエルの全会衆の前、主の祭壇の前に立って、手を伸べた。四ソロモンはさきに長さ五キュビト、幅五キュビト、高さ三キュビトの青銅の台を造つて、庭のまん中にすえて置いたので、彼はその上に立ち、イスラエルの全会衆の前でひざをかがめ、その手を天に伸べて、五言つた、「イスラエルの神、主よ、天にも地にも、あなたのような神はありません。あなたは契約を守られ、心をつくしてあなたの前に歩むあなたのしもべらに、いつくしみを施し、六あなたのしもべ、わたしの父ダビデに約束されたことを守られました。あなたが

口をもつて約束されたことを、手をもつてなし遂げられたことは、今日見るとおりであります。七それゆえ、イスラエルの神、主よ、あなたのしもべ、わたしの父ダビデに、あなたが約束して、『おまえがわたしの前に歩んだように、おまえの子孫がその道を慎んで、わたしのおきてに歩むならば、おまえにはイスラエルの位に座する人がわたしの前に欠けることはない』と言われたことを、ダビデのためにお守りください。八それゆえ、イスラエルの神、主よ、どうぞ、あなたのしもべダビデに言われた言葉を確認してください。

九しかし神は、はたして人と共に地上に住まわれるでしょうか。見よ、天も、いと高き天もあなたをいれることはできません。わたしの建てたこの家などなおさらです。一〇しかしわが神、主よ、しもべの祈と願いを顧みて、しもべがあなたの前にささげる叫びと祈をお聞きください。一一どうぞ、あなたの目を昼も夜もこの家に、すなわち、あなたの名をそこに置くと言われた所に向かってお聞きください。どうぞ、しもべがこの所に向かってささげる祈をお聞きください。三どうぞ、しもべと、あなたの民イスラエルがこの所に向かって祈る時に、その願いをお聞きください。あなたのすみかである天から聞き、聞いておゆるしくください。

三もし人がその隣りに対して罪を犯し、誓いをすることを求められるとき、来てこの宮で、あなたの祭壇の

前に誓うならば、^{二三}あなたは天から聞いて、行い、あなたのしもべらをさばき、悪人に報いをなして、その行いの報いをそのこうべに帰し、義人を義として、その義にしたがってその人に報いてください。

^{二四}もしあなたの民イスラエルが、あなたに対して罪を犯したために、敵の前に敗れた時、あなたに立ち返って、あなたの名をあがめ、この宮であなたの前に祈り願うならば、^{二五}あなたは天から聞き、あなたの民イスラエルの罪をゆるして、あなたが彼らとその先祖に与えられた地に彼らを帰らせてください。

^{二六}もし彼らがあなたに罪を犯したために、天が閉ざされて、雨がなく、あなたが彼らを苦しめられるとき、彼らがこの所に向かつて祈り、あなたの名をあがめ、その罪を離れるならば、^{二七}あなたは天にあって聞き、あなたのしもべ、あなたの民イスラエルの罪をゆるして、彼らに歩むべき良い道を教え、あなたの民に嗣業として賜わった地に雨を降らせてください。

^{二八}もし国にききんがあるか、もしくは疫病、立ち枯れ、腐り穢、いなご、青虫があるか、または敵のために町の門の中に攻め囲まれることがあるか、どんな災害、どんな病気があっても、^{二九}もし、ひとりか、あるいはあなたの民イスラエルが皆おのおのその心の悩みを知って、この宮に向かい、手を伸べるならば、どんな祈、どんな願いでも、^{三〇}あなたはそのすみかである天から聞いてゆる

し、おのおのの人に、その心を知っておられるゆえ、そのすべての道にしたがって報いてください。ただあなただけがすべての人の心を知っておられるからです。^{三一}あなたがわれわれの先祖たちに賜った地に、彼らの生きながらえる日の間、常にあなたを恐れさせ、あなたの道に歩ませてください。

^{三二}またあなたの民イスラエルの者でなく、他国人で、あなたの大きい名と、強い手と、伸べた腕のために遠い国から来て、この宮に向かつて祈るならば、^{三三}あなたは、あなたのすみかである天から聞き、すべて他国人があなたに呼び求めるようにしてください。そうすれば地のすべての民はあなたの民イスラエルのように、あなたの名を知り、あなたを恐れ、またわたしが建てたこの宮が、あなたの名によって呼ばれることを知るにいたるでしょう。

^{三四}あなたの民が敵と戦うために、あなたがつかわされる道によって出るとき、もし彼らがあなたの選ばれたこの町と、わたしがあなたの名のために建てたこの宮に向かつてあなたに祈るならば、^{三五}あなたは天から彼らの祈と願いとを聞いて彼らをお助けください。

^{三六}彼らがあなたに対して罪を犯すことがあって、罪を犯さない人はいないゆえ、——あなたが彼らを怒って、敵にわたし、敵が彼らを捕虜として遠い地あるいは近い地に引いて行くととき、^{三七}もし、彼らが捕われて行った地

で、みずから省みて悔い、その捕われの地であなたに願
い、『われわれは罪を犯し、よこしまな事をし、悪を行い
ました』と言ひ、三、その捕われの地で心をつくし、精神
をつくしてあなたに立ち返り、あなたが彼らの先祖に与
えられた地、あなたが選ばれた町、わたしがあなたの名
のために建てたこの宮に向かつて祈るならば、三、あなた
のすみかである天から、彼らの祈と願いとを聞いて彼ら
を助け、あなたに向かつて罪を犯したあなたの民をおゆる
すください。四、わが神よ、どうぞ、この所でささげる
祈にあなたの目を開き、あなたの耳を傾けてください。

二 主なる神よ、今あなたと、あなたの力の箱が
立って、あなたの安息所におはいりください。
主なる神よ、どうぞあなたの祭司たちに
救の衣を着せ、

あなたの聖徒たちに恵みを喜ばせてください。
三 主なる神よ、どうぞあなたの油そそがれた者の顔を
退けないでください。

あなたのしもべダビデに示されたいつくしみを
覚えて下さい。

第七章

一 ソロモンが祈り終ったとき、天から
火が下って燔祭と犠牲を焼き、主の栄光が宮に満ちた。
二 主の栄光が主の宮に満ちたので、祭司たちは主の宮に
はいることができなかった。三 イスラエルの人々はみな
火が下ったのを見、また主の栄光が宮に臨んだのを見て、

敷石の上で地にひれ伏して拝し、主に感謝して言った、
「主は恵みふかく、

そのいつくしみはとこしえに絶えることがない」。

四 そして王と民は皆主の前に犠牲をささげた。五 ソロ
モン王のささげた犠牲は、牛二万二千頭、羊十二万頭で
あった。こうして王と民は皆神の宮をささげた。六 祭司
はその持ち場に立ち、レビびとも主の楽器をとって立っ
た。その楽器はダビデ王が主に感謝するために造ったも
ので、ダビデが彼らの手によってさんびをささげるとき、
「そのいつくしみは、とこしえに絶えることがない」と
となえさせたものである。祭司は彼らの前でラッパを吹
き、すべてのイスラエルびとは立っていた。

七 ソロモンはまた主の宮の前にある庭の中を聖別し、
その所で、燔祭と酬恩祭のあぶらをささげた。これはソ
ロモンが造った青銅の祭壇が、その燔祭と素祭とあぶら
とを載せるに足りなかったからである。

八 その時ソロモンは七日の間祭を行った。ハマテの入
口からエジプトの川に至るまでのすべてのイスラエルび
とが彼と共にあり、非常に大きな会衆であった。九 そし
て八日目に聖会を開いた。彼らは七日の間、祭壇奉獻の
礼を行い、七日の間祭を行ったが、一〇 七月二十三日に
至ってソロモンは民をその天幕に帰らせた。皆主がダビ
デ、ソロモンおよびその民イスラエルに施された恵みの
ために喜び、かつ心に楽しんで去った。

二 こうしてソロモンは主の家と王の家とを造り終えた。すなわち彼は主の家と自分の家について、しようとして計画したすべての事を首尾よくなし遂げた。三時に主は夜ソロモンに現れて言われた、「わたしはあなたの祈を聞き、この所をわたしのために選んで、犠牲をささげる家とした。三わたしは天を閉じて雨をなくし、またはわたしがいなごに命じて地の物を食わせ、または疫病を民の中に送るとき、四わたしの名をもつてとなえられるわたしの民が、もしへりくだり、祈って、わたしの顔を求め、その悪い道を離れるならば、わたしは天から聞いて、その罪をゆるし、その地をいやす。五今この所にささげられる祈にわたしの目を開き、耳を傾ける。六今わたしはわたしの名をなぐここにとどめるために、この宮を選び、かつ聖別した。わたしの目とわたしの心は常にここにある。七あなたがもし父ダビデの歩んだようにわたしの前に歩み、わたしが命じたとおりにすべて行って、わたしの定めとおきてとを守るならば、八わたしはあなたの父ダビデに契約して『イスラエルを治める人はあなたに欠けることがない』と言ったとおりに、あなたの王の位を堅くする。

九しかし、あなたがたがもし翻って、わたしがあなたがたの前に置いた定めと戒めとを捨て、行って他の神々に仕え、それを拝むならば、一〇わたしはあなたがたをわたしの与えた地から抜き去り、またわたしの名のために

聖別したこの宮をわたしの前から投げ捨てて、もろもろの民のうちにことわざとし、笑い草とする。三またこの宮は高いけれども、ついには、そのかたわらを過ぎる者は皆驚いて、『何ゆえ主はこの地と、この宮とにこのようにされたのか』と言うであらう。三その時、人々は答えて『彼らはその先祖たちをエジプトの地から導き出した彼らの神、主を捨てて、他の神々につき従い、それを拝み、それに仕えたために、主はこのすべての災を彼らの上に下したのである』と言うであらう。

第八章 ソロモンは二十年を経て、主の家と自分の家とを建て終った。二またソロモンはヒラムから送られた町々を建て直して、そこにイスラエルの人々を住ませた。

三ソロモンはまたハマテ・ゾバを攻めて、これを取った。四彼はまた荒野にタデモルを建て、もろもろの倉の町をハマテに建てた。五また城壁、門、貫の木のある堅固な町、上ベテホロンと下ベテホロンを建てた。六ソロモンはまたバアラテと自分のもっていたすべての倉の町と、すべての戦車の町と、騎兵の町、ならびにエルサレム、レバノンおよび自分の治める全地方に建てようと望んだものを、ことごとく建てた。七すべてイスラエルの子孫でないヘビと、アモリびと、ペリジびと、ヒビびと、エブスびとの残った民、八その地にあつて彼らのあとに残ったその子孫、すなわちイスラエルの子孫が滅ぼ

し尽さなかつた民に、ソロモンは強制徴募をおこなつて今日に及んでいる。しかし、イスラエルの人々をソロモンはその工事のためには、ひとりも奴隷としなかつた。彼らは兵士となり、将校となり、戦車と、騎兵の長となつた。これらはソロモン王のおもな官吏で、二百五十人あり、民を治めた。

二ソロモンはバロの娘をダビデの町から連れ上つて、彼女のために建てた家に入れて言った、「主の箱を迎えた所は神聖であるから、わたしの妻はイスラエルの王ダビデの家に住んではならない」。

三ソロモンは廊の前に築いておいた主の祭壇の上で主に燔祭をささげた。四すなわちモーセの命令に従つて、毎日定めのようにささげ、安息日、新月および年に三度の祭、すなわち種入れぬパンの祭、七週の祭、仮庵の祭にこれをささげた。五ソロモンは、その父ダビデのおきてに従つて、祭司の組を定めてその職に任じ、またレビびとをその勤めに任じて、毎日定めのように祭司の前でさんびと奉仕をさせ、また門を守る者に、その組にしたがつて、もろもろの門を守らせた。これは神の人ダビデがこのように命じたからである。六祭司とレビびとはすべての事につき、また倉の事について、王の命令にそむかなかつた。

七このようにソロモンは、主の宮の基をすえた日からこれをなし終えたときまで、その工事の準備をことごと

くなしたので、主の宮は完成した。

八それからソロモンはエドムの地の海へにあるエジオン・ゲベルおよびエロテへ行つた。九時にヒラムはそのしもべどもの手によつて船団を彼に送り、また海の事になれたしもべどもをつかわしたので、彼らはソロモンのしもべらと共にオフルへ行き、そこから金四百五十タラントを取つて、これをソロモン王のもとに携えてきた。第十

第九章

シバの女王はソロモンの名声を聞いたので、難問をもつてソロモンを試みようとして、多くの従者を連れ、香料と非常にたくさんの金と宝石とをらくだに負わせて、エルサレムのソロモンのもとに来て、その心にあることをことごとく彼に告げた。二ソロモンは彼女のすべての間に答えた。ソロモンが知らないで彼女に説明のできないことは一つもなかつた。三シバの女王はソロモンの知恵と、彼が建てた家を見、四またその食卓の食物と、列座の家来たちと、その侍臣たちの伺候振りと彼らの服装、および彼の給仕たちとその服装、ならびに彼が主の宮でささげる燔祭を見て、全く氣を奪われてしまった。

五彼女は王に言った、「わたしは国でああなたの事と、あなたの知恵について聞いたうわさは真実でした。六しかしわたしは来て目に見るまでは、そのうわさを信じませんでした。今見ると、あなたの知恵の大いなることはその半分もわたしに知らされませんでした。あなたはわ

たしの聞いたうわさにまさっています。七あなたの奥方たちはさいわいです。常にあなたの前に立って、あなたの知恵を聞くこのあなたの家来たちはさいわいです。八あなたの神、主はほむべきかな。主はあなたを喜び、あなたをその位につかせ、あなたの神、主のために王とされました。あなたの神はイスラエルを愛して、どこしえにこれを堅くするために、あなたをその王とされ、公道と正義を行われるのです。九そして彼女は金百二十タラント、および非常に多くの香料と宝石とを王に贈った。シバの女王がソロモンに贈ったような香料は、いまだかつてなかった。

一〇オフルから金を携えて来たヒラムのしもべたちとソロモンのしもべたちはまた、びやくだんの木と宝石をも携えて来た。二王はそのびやくだんの木で、主の宮と王の家とに階段を造り、また歌うたう者のために琴と立琴を造った。このようなものはかつてユダの地で見たことがなかった。

三ソロモン王は、シバの女王が贈った物に報いたほかに、彼女の望みにまかせて、すべてその求めるものを贈った。そして彼女はその家来たちと共に自分の国へ帰って行った。

三 さて一年の間にソロモンの所にはいつて来た金の目は六百六十六タラントであった。四 このほかに貿易商および商人の携えて来たものがあつた。またアラビヤの

すべての王たちおよび国の代官たちも金銀をソロモンに携えてきた。一五ソロモン王は延金の大盾二百を造った。その大盾にはおのおの六百シケルの延金を用いた。二六また延金の小盾三百を造った。小盾にはおのおの三百シケルの金を用いた。王はこれらをレバノンの森の家に置いた。二七王はまた大きな象牙の王座を造り、純金でこれをおおった。二八その玉座には六つの段があり、また金の足台があつて共に玉座につらなり、その座する所の両方に、ひじかけがあつて、ひじかけのわきに二つのししが立っていた。二九また十二のししが六つの段のおのおの両側に立っていた。このような物はどこの国でも造られたことがなかった。三〇ソロモン王が飲むときに用いた器はみな金であつた。またレバノンの森の家の器もみな純金であつて、銀はソロモンの世には尊ばれなかった。三これは王の船がヒラムのしもべたちを乗せてタルシシへ行き、三年ごとに一度、そのタルシシの船が金、銀、象牙、さる、くじやくを載せて来たからである。

三 このようにソロモン王は富と知恵において、地のすべての王にまさっていたので、三地のすべての王は神がソロモンの心に授けられた知恵を聞こうとしてソロモンに謁見を求めた。三四人々はおのおの贈り物を携えてきた。すなわち銀の器、金の器、衣服、没薬、香料、馬、騾馬など年々定まっていた。三五ソロモンは馬と戦車のために馬屋四千と騎兵一万二千を持ち、これを戦車の町に

置き、またエルサレムの王のもとに置いた。二六 彼はユフラテ川からベリシテびとの地と、エジプトの境に至るまでのすべての王を治めた。二七 王はまた銀を石のようにエルサレムに多くし、香柏を平野のいちじく桑のように多くした。二八 また人々はエジプトおよび諸国から馬をソロモンのために輸入した。

二九 ソロモンのそのほかの始終の行為は、預言者ナタンの書と、シロびとアヒヤの預言と、先見者イドがネバテの子ヤラベアムについて述べた黙示のなかに、しるされてゐるではないか。三〇 ソロモンはエルサレムで四十年の間イスラエルの全地を治めた。三一 ソロモンはその先祖たちと共に眠って、父ダビデの町に葬られ、その子レハベアムが代って王となった。

第一〇章 レハベアムはシケムへ行った。すべてのイスラエルびとが彼を王にしようとシケムへ行ったからである。二 ネバテの子ヤラベアムは、ソロモンを避けてエジプトにのがれていたが、これを聞いてエジプトから帰ったので、三人々は人をつかわして彼を招いた。そこでヤラベアムとすべてのイスラエルは来て、レハベアムに言った、^四「あなたの父は、われわれのくびきを重くしましたが、今あなたの父のきびしい使役と、あなたの父が、われわれに負わせた重いくびきを軽くしてください。そうすればわたしたちはあなたに仕えましょう」。

五 レハベアムは彼らに答えた、「三日の後、またわたしの

所に来なさい」。それで民は去った。

六 レハベアム王は父ソロモンの存命中ソロモンに仕えた長老たちに相談して言った、「あなたがたはこの民にどう返答すればよいと思いますか」。七 彼らはレハベアムに言った、「あなたがもしこの民を親切にあつかい、彼らを喜ばせ、ねんごろに語られるならば彼らは長くあなたのしもべとなるでしょう」。八 しかし彼は長老たちが与えた勧めをすてて、自分と一緒に大きくなって自分に仕えてゐる若者たちに相談して、九 彼らに言った、「あなたがたは、この民がわたしに向かつて、『あなたの父上が、われわれに負わせたくびきを軽くしてください』と言うのに、われわれはなんと返答すればよいと思いますか」。一〇 彼と一緒に大きくなった若者たちは彼に言った、「あなたに向かつて、『あなたの父は、われわれのくびきを重くしたが、あなたは、それをわれわれのために軽くしてください』』と聞いたこの民に、こう言いなさい、『わたしの小指は父の腰よりも太い、二 父はあなたがたに重いくびきを負わせたが、わたしはさらに、あなたがたのくびきを重くしよう。父はむちであなただがたを懲らしたが、わたしはさそりであなただがたを懲らそう』」。

三 さてヤラベアムと民は皆、王が「三日目にわたしのところに来なさい」と言ったとおりに、三日目にレハベアムのところへ行った。四 王は荒々しく彼らに答えた。すなわちレハベアム王は長老たちの勧めをすて、五 若者

たちの勧めに従い、彼らに告げて言った、「父はあなたがたのくびきを重くしたが、わたしは更にこれを重くしよう。父はむちであなただがたを懲らしたが、わたしはさそりであなただがたを懲らそう」。(一五)このように王は民の言うことを聞きいれなかった。これは主が、かつてシロビとアヒヤによって、ネパテの子ヤラベアムに言われた言葉を成就するために、神がなされたのであった。

(一六)イスラエルの人々は皆、王が自分たちの言うことを聞きいれないのを見たので、民は王に答えて言った、

「われわれはダビデのうちに何の分があるうか。」

われわれはエッサイの子のうちに嗣業がない。

イスラエルよ、めいめいの天幕に帰れ。

ダビデよ、今あなたの家を見よ」。

そしてイスラエルは皆彼らの天幕へ去って行った。(一七)しかしレハベアムはユダの町々に住んでいるイスラエルの人々を治めた。(一八)レハベアム王は徴募人の監督であった。アドラムをつかわしたが、イスラエルの人々が石で彼を撃ち殺したので、レハベアム王は急いで車に乗り、エルサレムに逃げた。(一九)こうしてイスラエルはダビデの家にそむいて今日に至った。

第一章 レハベアムはエルサレムに来て、ユ

ダとベニヤミンの家の者、すなわち、えり抜き軍人十八万人を集め、国を取りもどすためにイスラエルと戦おうとしたが、主の言葉が神の人シマヤに臨んで言った、

「三」ソロモンの子、ユダの王レハベアムおよびユダとベニヤミンにいるすべてのイスラエルの人々に言いなさい、(四)『主はこう仰せられる、あなたがたは上ってはならない。あなたがたの兄弟と戦ってはならない。おの自分の家に帰りなさい。この事はわたしから出たのである』。それで人々は主の言葉を聞き、ヤラベアムを攻めに行くのをやめて帰った。

(五)レハベアムはエルサレムに住んで、ユダに防衛の町を建てた。(六)すなわちベツレヘム、エタム、テコア、セベテズル、ソコ、アドラム、ハガテ、マレシヤ、ジフ、アドライム、ラキシ、アゼカ、(七)ゾラ、アヤロン、およびヘブロン。これらはユダとベニヤミンにあって要害の町々である。(八)彼はその要害を堅固にし、これに軍長を置き、糧食と油とぶどう酒をたくわえ、(九)またそのすべての町に盾とやりを備えて、これを非常に強化し、そしてユダとベニヤミンを確保した。

(一〇)イスラエルの全地の祭司とレビびとは四方の境から来てレハベアムに身を寄せた。(一一)すなわちレビびとは自分の放牧地と領地を離れてユダとエルサレムに来了。これはヤラベアムとその子らが彼らを排斥して、主の前に祭司の務をさせなかったためである。(一二)ヤラベアムは高き所と、みだらな神と、自分で造った子牛のために自分の祭司を立てた。(一三)またイスラエルのすべての部族のうちで、すべてその心を傾けて、イスラエルの神、主を

求める者は先祖の神、主に犠牲をささげるために、レビびとに従つてエルサレムに來た。二七このように彼らはユダの國を堅くし、ソロモンの子レハベアムを三年の間強くした。彼らは三年の間ダビデとソロモンの道に歩んだからである。

一八レハベアムはダビデの子エレモテの娘マハラテを妻にめとつた。マハラテはエッサイの子エリアブの娘アビハイルが産んだ者である。一九彼女はエウシ、シマリヤおよびザハムの三子を産んだ。二〇彼はまた彼女の後にアブサロムの娘マアカをめとつた。マアカはアビヤ、アッタ、ジザおよびシロミテを産んだ。二一レハベアムはアブサロムの娘マアカをすべての妻とそばめにまさつて愛した。彼は妻十八人、そばめ六十人をめとつて、男の子二十八人と女の子六十人をもうけた。二二レハベアムはマアカの子アビヤを立ててかしらし、その兄弟の長とした。彼はアビヤを王にしようと思つたからである。二三それで王は賢くとり行い、そのむすこたちをことごとく、ユダとベニヤミンの全地方にあるすべての要害の町に散在させ、彼らに糧食を多く与え、また多くの妻を得させた。

第一章 一レハベアムはその國が堅く立ち、強くなるに及んで、主のおきてを捨てた。イスラエルも皆彼にならつた。二彼らがこのように主に向かつて罪を犯したので、レハベアム王の五年にエジプトの王シシャクがエルサレムに攻め上つてきた。三その戦車は一千二百、

騎兵は六万、また彼に従つてエジプトから來た民、すなわちリビアびと、スキびと、エチオピアびとは無数であつた。四シシャクはユダの要害の町々を取り、エルサレムに迫つて來た。五そこで預言者シマヤは、レハベアムおよびシシャクのゆえに、エルサレムに集まつたユダのつかさたちのもとにきて言つた、「主はこう仰せられる、『あなたがたはわたしを捨てたので、わたしもあなたがたを捨ててシシャクにわたした』と」。六そこでイスラエルのつかさたち、および王はへりくだつて、「主は正しい」と言つた。七主は彼らのへりくだるのを見られたので、主の言葉がシマヤにのぞんで言つた、「彼らがへりくだつたから、わたしは彼らを滅ぼさないで、間もなく救を施す。わたしはシシャクの手によつて、怒りをエルサレムに注ぐことをしない。八しかし彼らはシシャクのしもべになる。これは彼らがわたしに仕えることと、國々の王たちに仕えることとの相違を知るためである」。

九エジプトの王シシャクはエルサレムに攻めのぼつて、主の宮の宝物と、王の家の宝物とを奪ひ去つた。すなわちそれらをことごとく奪ひ去り、またソロモンの造つた金の盾をも奪ひ去つた。一〇それでレハベアム王は、その代りに青銅の盾を造つて、王の家の門を守る侍衛長たちの手に渡した。一一王が主の宮にはいるごとに侍衛は來て、これを負ひ、またこれを侍衛のへやへ持つて歸つた。一二レハベアムがへりくだつたので主の怒りは彼を離れ、

彼をことごとく滅ぼそうとはされなかった。またエダの事情もよくなった。

三レハベアム王はエルサレムで自分の地位を確立し、世を治めた。すなわちレハベアムは四十一歳のとき位につき、十七年の間エルサレムで世を治めた。エルサレムは主がその名を置いたためにイスラエルのすべての部族のうちから選ばれた町である。彼の母はアンモンの女で、名をナアマといった。二四レハベアムは主を求めることに心を傾けないうで、悪い事を行った。

一五レハベアムの始終の行為は、預言者シマヤおよび先見者イドの書に記されているではないか。レハベアムとヤラベアムとの間には絶えず戦争があった。一六レハベアムはその先祖たちと共に眠って、ダビデの町に葬られ、その子アビヤが彼に代って王となった。

第一三章 ヤラベアム王の第十八年にアビヤがエダの王となった。二彼は三年の間エルサレムで世を治めた。彼の母はギベアのウリエルの娘で、名をミカヤといった。

三ここにアビヤとヤラベアムとの間に戦争が起り、アビヤは四十万の精兵から成る勇敢な軍勢をもって戦いにいで、ヤラベアムも大勇士から成る八十万の精兵をもつて、これに向かつて戦いの備えをした。四時にアビヤはエフライムの山地にあるゼマライム山の上に立つて言った、「ヤラベアムおよびイスラエルの人々よ皆聞け。五あ

なたがたはイスラエルの神、主が塩の契約をもってイスラエルの国をながくダビデとその子孫に賜ったことを知らないのか。六ところがダビデの子ソロモンの家来であるネバテの子ヤラベアムが起つて、その主君にそむき、七また卑しい無頼のともがらが集まって彼にくみし、ソロモンの子レハベアムに敵したが、レハベアムは若くかつ意志が弱くてこれに当ることができなかった。

八今また、あなたがたは大軍をたのみ、またヤラベアムが造つて、あなたがたの神とした金の子牛をたのんで、ダビデの子孫の手にある主の国に敵対しようとしてゐる。九またあなたがたはアロンの子孫である主の祭司とレビびとを追ひだして、他の国々の民がするように祭司を立てたではないか。すなわちだれでも若い雄牛一頭、雄羊七頭を携えてきて、自分を聖別する者は皆あの神でない者の祭司とすることができた。一〇しかしわれわれに於いては、主がわれわれの神であつて、われわれは彼を捨てない。また主に仕える祭司はアロンの子孫であり、働きをなす者はレビびとである。二彼らは朝ごと夕ごとに主に燔祭と、こうばしい香をささげ、供えのパンを純金の机の上に供え、また金の燭台とそのともしび皿を整えて、夕ごとにともすのである。このようにわれわれはわれわれの神、主の務を守っているが、あなたがたは彼を捨てた。三見よ、神はみずからわれわれと共にあられて、われわれのかしらとなられ、また、その祭司たちは

ラッパを吹きならして、あなたがたを攻める。イスラエルの人々よ、あなたがたの先祖の神、主に敵して戦ってはならない。あなたがたは成功しない」。

二一 ユダはうしろを見ると、敵が前とうしろにあつたので、主に向かつて呼ばわり、祭司たちはラッパを吹いた。二五 そこでユダの人々はときの声をあげた。ユダの人々がときの声をあげると、神はユラベアムとイスラエルの人々をアビヤとユダの前に打ち敗られたので、二六 イスラエルの人々はユダの前から逃げた。神が彼らをユダの手に渡されたので、二七 アビヤとその民は、彼らをおびたたく撃ち殺した。イスラエルの殺されて倒れた者は五十万人、皆精兵であつた。二八 このように、この時イスラエルの人々は打ち負かされ、ユダの人々は勝を得た。彼らがその先祖の神、主を頼んだからである。二九 アビヤはユラベアムを追撃して数個の町を彼から取った。すなわちベテルとその村里、エシヤナとその村里、エフロンとその村里である。三〇 ユラベアムは、アビヤの世には再び力を得ることができず、主に撃たれて死んだ。三しかアビヤは強くなり、妻十四人をめとり、むすこ三十二人、むすめ十六人をもうけた。三二 アビヤのその他の行為すなわちその行動と言葉は、預言者イドの注釈にしるされてゐる。

第一四章

一 アビヤはその先祖たちと共に眠つて、ダビデの町に葬られ、その子アサが代つて王となつた。アサの治世に国は十年の間、穏やかであつた。二 アサはその神、主の目に良しと見え、また正しと見えることを行つた。三 彼は異なる祭壇と、もろもろの高き所を取り除き、石柱をこわし、アシラ像を切り倒し、四 ユダに命じてその先祖たちの神、主を求めさせ、おきてと戒めとを行わせ、五 ユダのすべての町々から、高き所と香の祭壇とを取り除いた。そして国は彼のもとに穏やかであつた。六 彼は国が穏やかであつたので、要害の町数個をユダに建てた。また主が彼に平安を賜つたので、この年ごろ戦争がなかつた。七 彼はユダに言った、「われわれはこれらの町を建て、その周囲に石がきを築き、やぐらを建て、門と貫の木を設けよう。われわれがわれわれの神、主を求めたので、この国はなおわれわれのものであり、われわれが彼を求めたので、四方において、われわれに平安を賜つた」。こうして彼らは滞りなく建て終つた。八 アサの軍隊はユダから出た者三十万人あつて、盾とやりをとり、ベニヤミンから出た者二十八万人あつて、小盾をとり、弓を引いた。これはみな大勇士であつた。九 エチオピアびとセラが、百万の軍隊と三百の戦車を率いて、マレシヤまで攻めてきた。一〇 アサは出て、これを迎え、マレシヤのゼバタの谷に戦いの備えをした。二時にアサはその神、主に向かつて呼ばわつて言った、

第一五章 一時に神の靈がオデデの子アザリヤに臨んだので、ニ彼は出ていつてアサを迎え、これに言つた、「アサおよびユダとベニヤミンの人々よ、わたしに聞きなさい。あなたがたが主と共にいる間は、主もあなたがたと共におられます。あなたがたが、もし彼を求めらば、彼に会うでしょう。しかし、彼を捨てるならば、彼もあなたがたを捨てられるでしょう。三、そもそも、イ

ハアサはこれらの言葉すなわちオデデの子アザリヤの預言を聞いて勇氣を得、憎むべき偶像をユダとベニヤミンの全地から除き、また彼がエフライムの山地で得た町から除き、主の宮の廊の前にあつた主の祭壇を再興した。九彼はまたユダとベニヤミンの人々およびエフライム、マナセ、シメオンから来て、彼らの間に寄留していた者を集めた。その神、主がアサと共におられるのを見て、イスラエルからアサのもとに下った者が多くあつたからである。○彼らはアサの治世の十五年の三月にエルサレムに集まり、二携えてきたぶんどり物のうちから牛七百頭、羊七千頭をその日主にささげた。三そして彼らは契約を結び、心をつくし、精神をつくして先祖の神、主を求めることと、四すべてイスラエルの神、主を求める者、五老幼男女の別なく殺さるべきことを約した。六そして彼らは大声をあげて叫び、ラッパを吹き、角笛

を鳴らして、主に誓いを立てた。二五 ユダは皆その誓いを喜んだ。彼らは心をつくして誓いを立て、精神をつくして主を求めたので、主は彼らに会い、四方で彼らに安息を賜わった。

一六 アサ王の母マアカがアシラのために憎むべき像を造ったので、アサは彼女をおとして太后とせず、その憎むべき像を切り倒して粉々に砕き、キデロン川でそれを焼いた。一七 ただし高き所はイスラエルから除かなかったが、アサの心は一生の間、正しかった。一八 彼はまた、その父のささげた物および自分のささげた物、すなわち銀、金並びに器物などを主の宮に携え入れた。一九 そしてアサの治世の三十五年までは再び戦争がなかった。

第一章 アサの治世の三十六年にイスラエルの王バアシャはユダに攻め上り、ユダの王アサの所にだれをも出入りさせないためにラマを築いた。二そこでアサは主の宮と王の家の宝蔵から金銀を取り出し、ダマスコに住んでいるスリヤの王ベネハダデに贈って言った、

三 わたしの父とあなたの父の間のように、わたしとあなたの間に同盟を結びましょう。わたしはあなたに金銀を贈ります。行って、あなたとイスラエルの王バアシャとの同盟を破り、彼をわたしから撤退させてください。四 ベネハダデはアサ王の言うことを聞き、自分の軍勢の長たちをつかわしてイスラエルの町々を攻め、イヨンとダンとアベル・マイムおよびナフタリのすべての倉の町

を撃った。五 バアシャはこれを聞いて、ラマを築くことをやめ、その工事を廃した。六 そこでアサ王はユダの全国の人々を引き連れ、バアシャがラマを建てるために用いた石と木材を運んでこさせ、それをもってゲバとミツパを建てた。

七 そのころ先見者ハナニがユダの王アサのもとに来て言った、「あなたがスリヤの王に寄り頼んで、あなたの神主に寄り頼まなかったので、スリヤ王の軍勢はあなたの手からのがれてしまった。八 かのエチオピアびとと、リビアびとは大軍で、その戦車と騎兵は、はなはだ多かったではないか。しかしあなたが主に寄り頼んだので、主は彼らをあなたの手に渡された。九 主の目はあまねく全地を行きめぐり、自分に向かつて心を全うする者のために力をあらわされる。今度の事では、あなたは愚かな事をした。ゆえにこの後、あなたに戦争が臨むであろう。一〇するとアサはその先見者を怒って、獄屋に入れた。この事のために激しく彼を怒ったからである。アサはまたそのころ民のある者をしえたげた。

二 見よ、アサの始終の行為は、ユダとイスラエルの列王の書にしるされている。三 アサはその治世の三十九年に足を病み、その病は激しくなったが、その病の時に、主を求めないで医者をもとめた。四 アサは先祖たちと共に眠り、その治世の四十一年に死んだ。五 人々は彼が自分のためにダビデの町に掘っておいた墓に葬り、製香の術

をもつて造つた様々の香料を満たした床に横たえ、彼のためにおびただしく香をたいた。

第一七章 アサの子ヨシヤパテがアサに代つて王となり、イスラエルに向かつて自分を強くし、ユダのすべての堅固な町々に軍隊を置き、またユダの地およびその父アサが取つたエフライムの町々に守備隊を置いた。三主はヨシヤパテと共におられた。彼がその父ダビデの最初の道に歩んで、バアルに求めず、四その父の神に求めて、その戒めに歩み、イスラエルの行いにならわなかつたからである。五それゆえ、主は国を彼の手に堅く立てられ、またユダの人々は皆ヨシヤパテに贈り物を持ってきた。彼は大きい富と誉とを得た。六そこで彼は主の道に心を励まし、さらに高き所とアシラ像とをユダから除いた。

七彼はまたその治世の三年に、つかさたちベネハイル、オバデヤ、ゼカリヤ、ネタンエルおよびミカヤをつかわしてユダの町々で教えさせ、八また彼らと共にレビびとのうちからシマヤ、ネタニヤ、ゼバデヤ、アサヘル、セミラモテ、ヨナタン、アドニヤ、トビヤ、トバドニヤをつかわし、またこれらのレビびとと共に祭司エリシヤマとヨラムをもつかわした。九彼らは主の律法の書を携えて、ユダで教をなし、またユダの町々をことごとく巡回して、民の間に教をなした。

一〇そこでユダの周囲の国々は皆主を恐れ、ヨシヤパテ

と戦うことをしなかつた。二また、ペリシテびとのうちで贈り物や、みつぎの銀をヨシヤパテの所に持つてくる者があり、またアラビヤびとは雄羊七千七百頭、雄やぎ七千七百頭を彼に持つてきた。三こうしてヨシヤパテはますます大いになり、ユダに要害および倉の町を建て、四ユダの町々に多くの軍需品を持ち、またエルサレムに大勇士である軍人たちを持つていた。五彼らをその氏族によつて数えれば次のとおりである。すなわちユダから出た千人の長のうちでは、アデナという軍長と彼に従う大勇士三十万人、六その次は軍長ヨハナンと彼に従う者二十八万人、七その次は喜んでその身を主にささげた者ジクリの子アマジャと彼に従う大勇士二十万人、八ベニヤミンから出た者のうちでは、エリアダという大勇士と彼に従う弓および盾を持つ者二十万人、九その次はヨザパデと彼に従う戦いの備えある者十八万人である。一九これらは皆王に仕える者たちで、このほかにまたユダ全国の堅固な町々に、王が駐在させた者があつた。

第一八章 ヨシヤパテは大いなる富と誉とをもち、アハブと縁を結んだ。二彼は数年の後、サマリヤに下つて、アハブをおとすれた。アハブは彼と彼に従つてきた民のために羊と牛を多くほふり、ラモテ・ギレアデと一緒に攻め上ることを彼にすすめた。三イスラエルの王アハブはユダの王ヨシヤパテに言った、「あなたはわたしと一緒にラモテ・ギレアデに攻めて行きますか」。ヨ

シヤパテは答えた、「わたしはあなたと一つです、わたしの民はあなたの民と一つです。わたしはあなたと一緒に戦いに臨みましょう」。

四 ヨシヤパテはまたイスラエルの王に言った、「まず主の言葉を求めなさい」。五 そこでイスラエルの王は預言者四百人を集めて彼らに言った、「われわれはラモテ・ギレアドに、戦いに行くべきか、あるいは控えるべきか」。彼らは言った、「上って行きなさい。神はそれを王の手にわたされるでしょう」。六 ヨシヤパテは言った、「ほかにわれわれが問うべき主の預言者はここにいませんか」。七 イスラエルの王はヨシヤパテに言った、「ほかになおひとりいます。われわれはこの人によって主に問うことができますが、彼はわたしについて良い事を預言したことがなく、常に悪いことだけを預言するので、わたしは彼を憎みます。その者はイムラの子ミカヤです」。ヨシヤパテは言った、「王よ、そうは言わないでください」。八 そこでイスラエルの王はひとりの役人を呼んで、「イムラの子ミカヤを急いで連れてきなさい」と言った。九 さてイスラエルの王およびユダの王ヨシヤパテは王の衣を着て、サマリヤの門の入口の広場におのおのその玉座に座し、預言者たちは皆その前で預言していた。一〇 ケナアナの子ゼデキヤは鉄の角を造って言った、「主はこう仰せられます、『あなたはこれらの角をもってスリヤびとを突いて滅ぼし尽しなさい』。二 預言者たちは皆そのように預言して

言った、「ラモテ・ギレアドに上って行って勝利を得なさい。主はそれを王の手にわたされるでしょう」。

三 さてミカヤを呼びに行った使者は彼に言った、「預言者たちは一致して王に良い事を言いました。どうぞ、あなたの言葉も、彼らのひとりの言葉のようにし、良い事を言うてください」。四 ミカヤは言った、「主は生きておられる。わが神の言われることをわたしは申します」。五 彼が王の所へ行くと、王は彼に言った、「ミカヤよ、われわれはラモテ・ギレアドに戦いに行くべきか、あるいは控えるべきか」。彼は言った、「上って行って勝利を得なさい。彼らはあなたの手にわたされるでしょう」。六 しかし王は彼に言った、「幾たびあなたを誓わせたなら、あなたは主の名をもって、ただ真実のみをわたしに告げるだろうか」。七 彼は言った、「わたしはイスラエルが皆牧者のない羊のように山に散っているのを見ました。すると主は『これらの者は主人をもっていない。彼らをそれぞれ安らかに、その家に帰らせよ』と言われました」。八 イスラエルの王はヨシヤパテに言った、「わたしはあなたに、彼はわたしについて良い事を預言せず、ただ悪い事だけを預言すると告げたではありませんか」。九 ミカヤは言った、「それだから主の言葉を聞きなさい。わたしは王がその玉座に座し、天の万軍がその右左に立っているのを見たが、『主は、『だれがイスラエルの王アハブをいざなって、ラモテ・ギレアドに上らせ、彼を倒れさ

せるであらうか』と言われた。するとひとりには、こうしようと言ひ、ひとりには、ああしようと言った。二〇その時一つの霊が進み出て、主の前に立ち、『わたくしが彼をいざないましよう』と言ったので、主は彼に『何をもちてするか』と言われた。三彼は『わたくしが出て行って、偽りを言う霊となつて、すべての預言者の口に宿りましよう』と言った。そこで主は『おまえは彼をいざなつて、それをなし遂げるであらう。出て行って、そうしなさい』と言われた。三それゆゑ、主は偽りを言う霊をこの預言者たちの口に入れ、また主はあなたについて災を告げられたのです。

二三するとケナアナの子ゼデキヤが近寄つてミカヤのほおを打つて言った、『主の霊がどの道からわたくしを離れて行って、あなたに語りましたか』。二四ミカヤは言った、『あなたが奥の間にはいつて身を隠す日に見るでしよう』。二五イスラエルの王は言った、『ミカヤを捕え、町のつかさアモンと王の子ヨアシの所へ引いて行って、二六言いなさい、『王はこう言う、この者を獄屋に入れ、少しばかりのパンと水をもつて彼を養ひ、わたくしが勝利を得て帰ってくるのを待て』と』。二七ミカヤは言った、『あなたがもし勝利を得て帰るならば、主はわたしによつて語られなかつたのです』。また彼は言った、『あなたがたすべての民よ、聞きなさい』。

二八こうしてイスラエルの王とユダの王ヨシヤパテは、

ラモテ・ギレアデに上つた。二九イスラエルの王はヨシヤパテに言った、『わたくしは姿を変えて戦いに行きましよう。しかしあなたは王の衣を着けなさい』。イスラエルの王は姿を変えて戦いに行った。三〇さて、スリヤの王はその戦車隊長たちに命じて言った、『あなたがたは小さい者とも、大きい者とも戦つてはならない。ただイスラエルの王とのみ戦いなさい』。三一戦車隊長らはヨシヤパテを見たとき、これはきつとイスラエルの王だと思つたので、身を巡らしてこれと戦おうとした。しかしヨシヤパテが呼ばわつたので、主はこれを助けられた。すなわち神は敵を彼から離れさせられた。三二戦車隊長らは彼がイスラエルの王でないのを見たので、彼を追うことをやめて引き返した。三三しかし、ひとりの人が、なにごろなく弓を引いて、イスラエルの王の胸当てと、くさずりの間を射たので、彼はその車の御者に言った、『わたくしは傷を受けたから、車をめぐらして、わたくしを軍中から運び出せ』。三四その日戦いは激しくなつた。イスラエルの王は車の中に自分をささえて立ち、夕暮までスリヤびとに向かつていたが、日の入るころになつて死んだ。

第一章 ユダの王ヨシヤパテは、つつがなくエルサレムの自分の家に帰つた。二そのとき、先見者ハナニの子エヒウが出てヨシヤパテを迎えて言った、『あなたは悪人を助け、主を憎む者を愛してよいのですか。それゆゑ怒りが主の前から出て、あなたの上に臨みます。

三しかしあなたには、なお良い事もあります。あなたはアシラ像を国の中から除き、心を傾けて神を求められました。

四ヨシヤパテはエルサレムに住んでいたが、また出て、ベエルシバからエフライムの山地まで民の中を巡り、先祖たちの神、主に彼らを導き返した。五彼はまたユダの國中、すべての堅固な町ごとに裁判人を置いた。六そして裁判人たちに言った、「あなたがたは自分のする事に気をつけなさい。あなたがたは人のために裁判するのではなく、主のためにするのです。あなたがたが裁判する時には、主はあなたがたと共におられます。七だからあなたがたは主を恐れ、慎んで行いなさい。われわれの神、主には不義がなく、人をかたより見ることなく、まいないを取ることもないからです」。

八ヨシヤパテはまたレビびと、祭司、およびイスラエルの氏族の長たちを選んでエルサレムに置き、主のために裁判を行い、争議の解決に当らせた。彼らはエルサレムに居住した。九ヨシヤパテは彼らに命じて言った、「あなたがたは主を恐れ、真実と真心とをもって行わなければならない。一〇すべてその町々に住んでいるあなたがたの兄弟たちから、血を流した事または律法と戒め、定めとおきてなどの事について訴えてきたならば、彼らをさとして、主の前に罪を犯させず、怒りがあなたがたと、あなたがたの兄弟たちに臨まないようにしなさい。その

ようにすれば、あなたがたは罪を犯すことがないでしょう。二見よ、祭司長アマリヤは、あなたがたの上にいて、主の事をすべてつかさどり、イシマエルの子、ユダの家のつかさゼバデヤは王の事をすべてつかさどり、またレビびとはあなたがたの前にあって役人となります。雄々しく行動しなさい。主は正直な人と共におられます」。

第二〇章 一この後モアブびと、アンモンびとおよびメウニびとらがヨシヤパテと戦おうと攻めてきた。二その時ある人がきて、ヨシヤパテに告げて言った、「海のかたのエドムから大軍があなたに攻めて来ます。見よ、彼らはハザゾン・タマル(すなわちエンゲデ)にいます。三そこでヨシヤパテは恐れ、主に顔を向けて助けを求め、ユダ全国に断食をふれさせた。四それでユダはこぞって集まり、主の助けを求めた。すなわちユダのすべての町から人々が来て主を求めた。

五そこでヨシヤパテは主の宮の新しい庭の前で、ユダとエルサレムの会衆の中に立つて、六言った、「われわれの先祖の神、主よ、あなたは天にいます神ではありませんか。異邦人のすべての国を治められるではありませんか。あなたの手には力があり、勢いがあつて、あなたに逆らいうる者はありません。七われわれの神よ、あなたはこの国の民をあなたの民イスラエルの前から追い払つて、あなたの友アブラハムの子孫に、これを永遠に与えられたではありませんか。八彼らはここに住み、あなた

の名のためにここに聖所を建てて言いました、『つるぎ、審判、疫病、ききんなどの災がわれわれに臨む時、われわれはこの宮の前に立って、あなたの前におり、その悩みの中であなたに呼びわります。すると、あなたは聞いて助けられます。あなたの名はこの宮にあるからです』と。『今アンモン、モアブ、およびセイル山の人々をござらんさい。昔イスラエルがエジプトの国から出てきた時、あなたはイスラエルに彼らを侵すことをゆるされなかった。イスラエルは彼らを離れて、滅ぼしませんでした。二彼らがわれわれに報いるところをござらんさい。彼らは来て、あなたがわれわれに賜ったあなたの領地からわれわれを追い払おうとしています。三われわれの神よ、あなたは彼らをさばかれないのですか。われわれはこのように攻めて来る大軍に当る力がなく、またいかになすべきかを知りません。ただ、あなたを仰ぎ望むのみです。』

三ユダの人々はその幼な子、その妻、および子供たちと共に皆主の前に立っていた。四その時主の霊が会衆の中でアサフの子孫であるレビびとヤハジエルに臨んだ。ヤハジエルはゼカリヤの子、ゼカリヤはベナヤの子、ベナヤはエイエルの子、エイエルはマッタニヤの子である。五ヤハジエルは言った、『ユダの人々、エルサレムの住民、およびヨシャパテ王よ、聞きなさい。主はあなたがたにこう仰せられる、『この大軍のために恐れてはなら

ない。おののいてはならない。これはあなたがたの戦いではなく、主の戦いだからである。六あす、彼らの所へ攻め下りなさい。見よ、彼らはデツの坂から上って来る。あなたがたはエルエルの野の東、谷の端でこれに会うであろう。七この戦いには、あなたがたは戦うに及ばない。ユダおよびエルサレムよ、あなたがたは進み出て立ち、あなたがたと共におられる主の勝利を見なさい。恐れてはならない。おののいてはならない。あす、彼らの所に攻めて行きなさい。主はあなたがたと共におられるからである。』

八ヨシャパテは地にひれ伏した。ユダの人々およびエルサレムの民も主の前に伏して、主を拝した。九その時コハテびとの子孫、およびコラびとの子孫であるレビびとが立ち上がり、大声をあげてイスラエルの神、主をさるびした。

一〇彼らは朝早く起きてテコアの野に出て行った。その出て行くとき、ヨシャパテは立って言った、『ユダの人々およびエルサレムの民よ、わたしに聞きなさい。あなたがたの神、主を信じなさい。そうすればあなたがたは堅く立つことができる。主の預言者を信じなさい。そうすればあなたがたは成功するでしょう。』三彼はまた民と相談して人々を任命し、聖なる飾りを着けて軍勢の前に進ませ、主に向かって歌をうたい、かつさんびさせ、

「主に感謝せよ、

そのいつくしみはとこしえに絶えることがないと言わせた。三そして彼らが歌をうたい、さんびし始めた時、主は伏兵を設け、かのユダに攻めてきたアンモン、モアブ、セイル山の人々に向かわせられたので、彼らは打ち敗られた。三すなわちアンモンとモアブの人々は立ち上がって、セイル山の民に敵し、彼らを殺して全く滅ぼしたが、セイルの民を殺し尽すに及んで、彼らもおのおの互に助けて滅ぼしあつた。

二四ユダの人々は野の物見やぐらへ行つて、かの群衆を見たが、地に倒れた死体だけであつて、ひとりもののがれた者はなかつた。二五それでヨシヤパテとその民は彼らの物を奪うために来て見ると、多数の家畜、財宝、衣服および寶石などおびただしくあつたので、おのおのそれをはぎ取つたが、運びきれないほどたくさんで、かすめ取るに三日もかかつた。それほど物が多かつたのである。二六四日目に彼らはベラカの谷に集まり、その所で主を祝福した。それでその所の名を今日までベラカの谷と呼んでいる。二七そしてユダとエルサレムの人々は皆ヨシヤパテを先に立て、喜んでエルサレムに帰つてきた。主が彼らにその敵のことによつて喜びを与えられたからである。二八すなわち彼らは立琴、琴およびラツパをもつてエルサレムの主の宮に來た。二九そしてもろもろの国の民は主がイスラエルの敵と戦われたことを聞いて神を恐れた。三〇こうして神が四方に安息を賜つたので、ヨシヤ

パテの国は穩やかであつた。

三このようにヨシヤパテはユダを治めた。彼は三十五歳の時、王となり、二十五年の間エルサレムで世を治めた。彼の母の名はアズバといつてシルヒの娘である。三ヨシヤパテは父アサの道を歩んでそれを離れず、主の目に正しいと見られることを行つた。三しかし高き所は除かず、また民はその先祖の神に心を傾けなかつた。

三四ヨシヤパテのその他の始終の行為は、ハナニの子エヒウの書にしるされ、イスラエルの列王の書に載せられてある。

三五この後ユダの王ヨシヤパテはイスラエルの王アハジヤと相結んだ。アハジヤは悪を行つた。三六ヨシヤパテはタルシシへ行く船を造るためにアハジヤと相結び、エジオン・ゲベルで一緒に船数隻を造つた。三七その時マレシヤのドダワの子エリエゼルはヨシヤパテに向かつて預言し、「あなたはアハジヤと相結んだので、主はあなたの造つた物をこわされます」と言つたが、その船は難破して、タルシシへ行くことができなかった。

第二章 ヨシヤパテは先祖たちと共に眠り、先祖たちと共にダビデの町に葬られ、その子ヨラムが代つて王となつた。二ヨシヤパテの子であるその兄弟たちはアザリヤ、エヒエル、ゼカリヤ、アザリヤ、ミカエルおよびシパテヤで、皆ユダの王ヨシヤパテの子たちであつた。三その父は彼らに金、銀、宝物の賜物を多く与

え、またエダの要害の町々を与えたが、ヨラムは長子なので、国はヨラムに与えた。四ヨラムはその父の位に登って強くなつた時、その兄弟たちをことごとくつるぎにかけて殺し、またエダのつかさたち数人を殺した。

五ヨラムは位についた時三十二歳で、エルサレムで八年の間世を治めた。六彼はアハブの家がしたようにイスラエルの王たちの道に歩んだ。アハブの娘を妻としたからである。このように彼は主の目の前に悪をおこなつたが、主はさきにダビデと結ばれた契約のゆえに、また彼とその子孫とになく、ともしびを与えること約束されたことによつて、ダビデの家を滅ぼすことを好まれなかつた。

ハヨラムの世にエドムがそむいて、エダの支配を脱し、みずから王を立てたので、九ヨラムはその将校たち、およびすべての戦車を従えて渡って行き、夜のうちに立ち上がつて、自分を包圍しているエドムびととその戦車の隊長たちを撃つた。一〇エドムはこのようにそむいてエダの支配を脱し、今日に至っている。そのころリブナもまたそむいてエダの支配を脱した。ヨラムが先祖たちの神、主を捨てたからである。

二彼はまたエダの山地に高き所を造つて、エルサレムの民に姦淫を行わせ、エダを惑わした。三その時預言者エリヤから次のような一通の手紙がヨラムのもとに来た、「あなたの先祖ダビデの神、主はこう仰せられる、『あなたは父ヨシヤバテの道に歩まず、またエダの王アサの

道に歩まないで、四イスラエルの王たちの道に歩み、エダとエルサレムの民に、かのアハブの家がイスラエルに姦淫を行わせたように、姦淫を行わせ、またあなたの父の家の者で、あなたにまさっているあなたの兄弟たちを殺したゆえ、五主は大いなる災をもつてあなたの民と子供と妻たちと、すべての所有を撃たれる。六あなたはまた内臓の病氣にかかつて大病になり、それが日に日に重くなつて、ついに内臓が出るようになる。』

七その時、主はヨラムに対してエチオピアびとの近くに住んでゐるペリシテびととアラビヤびとの靈を振り起されたので、八彼らはエダに攻め上つて、これを侵し、王の家にある貨財をことごとく奪い去り、またヨラムの子供と妻たちをも奪い去つたので、末の子エホアハズのほかに、ひとりも残つた者がなかつた。

九このもろもろの事後、主は彼を撃つて内臓にいたがたい病氣を起させられた。一〇時がたつて、二年の終りになり、その内臓が病氣のために出て、重い病苦によつて死んだ。民は彼の先祖のために香をたいたように、彼のために香をたかなかつた。一一ヨラムはその位についた時三十二歳で、八年の間エルサレムで世を治め、ついに死んだ。ひとりも彼を惜しむ者がなかつた。人々は彼をダビデの町に葬つたが、王たちの墓にはなかつた。

第二章 エルサレムの民はヨラムの末の子アハジヤを彼の代りに王とした。かつてアラビヤびとと一

緒に陣営に攻めてきた一隊の者が上の子たちをことごとく殺したので、ユダの王ヨラムの子アハジヤが王となつたのである。ニアハジヤは王となつた時四十二歳で、エルサレムで一年の間世を治めた。その母はオムリの娘で、名をアタリヤといつた。ニアハジヤもまたアハブの家の道に歩んだ。その母が彼の相談相手となつて悪を行わせたからである。彼はまたアハブの家がしたように主の目の前に悪を行つた。すなわちその父が死んだ後、アハブの家の者がその相談役となつたので、彼はついに自分を滅ぼすに至つた。ニアハジヤはまた彼らの勧めに従つて、イスラエルの王アハブの子ヨラムと共にラモテ・ギレアデへ行き、スリヤの王ハザエルと戦つたが、スリヤの王ハザエルと戦つた時、ラマで負つたその傷をいやすためにエズレルに帰つた。ユダの王ヨラムの子アハジヤはアハブの子ヨラムが病氣なのでエズレルに下つてこれを見舞つた。

ニアハジヤがヨラムを見舞に行つたことによつて滅びに至つたのは神によつて定められたことである。すなわち彼がそこに着いた時、ヨラムと一緒に出て、ニムシの子エヒウを迎えた。エヒウは主がアハブの家を断ち滅ぼすために油を注がれた者である。エヒウはアハブの家を罰するにあつて、ユダのつかさたち、およびアハジヤの兄弟たちの子らがアハジヤに仕えているのを見たの

で、彼らをも殺した。ニアハジヤはサマリヤに隠れてゐたが、エヒウが彼を捜し求めたので、人々は彼を捕え、エヒウのもとに引いてきて、彼を殺した。ただし「彼は心をつくして主を求めたヨシヤパテの子である」と人々は言つたのでこれを葬つた。こうしてアハジヤの家には国を統べ治めうる者がなくなつた。

ニアハジヤの母アタリヤは自分の子の死んだのを見て、立つてユダの家の王子をことごとく滅ぼしたが、二王の娘エホシバはアハジヤの子ヨアシを王の子たちの殺される者のうちから盗み取り、彼とそのうばを寢室においた。こうしてエホシバがヨアシをアタリヤから隠したので、アタリヤはヨアシを殺さなかつた。エホシバはヨラム王の娘、またアハジヤの妹で、祭司エホヤダの妻である。三こうしてヨアシは神の宮に隠れて彼らと共にゐること六年、その間アタリヤが国を治めた。

第二十三章 第七年になつて、エホヤダは勇気をだしてエロハムの子アザリヤ、ヨハナンの子イシマエル、オベデの子アザリヤ、アダヤの子マアセヤ、ジクリの子エリシヤパテなどの百人の長たちを招いて契約を結ばせた。二そこで彼らはユダを行きめぐつて、ユダのすべての町からレビびとを集め、またイスラエルの氏族の長たちを集めて、エルサレムに來た。三そしてその会衆は皆神の宮で王と契約を結んだ。その時エホヤダは彼らに言つた、「主がダビデの子孫のことについて言われたよう

に、王の子が位につくべきです。四 あなたがたのなすべき事はこれです。すなわちあなたがた祭司およびレビとの安息日にはいつて来る者の、三分の一は門を守る者となり、五分の一は王の家にあり、三分の一は礎の門にあり、民は皆、主の宮の庭にいなさい。六 祭司と、勤めをするレビびとのほかは、だれも主の宮に、はいつてはならない。彼らは聖なる者であるから、はいることができる。民は皆、主の命令を守らなければならない。七 レビびとはめいめい手に武器をとって王のまわりに立たなければならぬ。宮にはいる者をすべて殺しなさい。あなたがたは王がはいる時にも出る時にも、王と共にいなさい。

八 そこでレビびとおよびユダの人々は、祭司エホヤダがすべて命じたように行い、めいめいその組の者で、安息日にはいつて来るべき者と、安息日に出て行くべき者を率いていた。祭司エホヤダが組の者を去らせなかったからである。九 また祭司エホヤダは、神の宮にあるダビデ王のやりおよび大盾、小盾を百人の長たちに渡し、こまた王を守るために、すべての民にめいめい手に武器をとらせ、宮の南側から北側にわたって、祭壇と宮に沿って立たせた。二こうして王の子を連れ出して、これに冠をいただかせ、あかしの書を渡して王となし、エホヤダおよびその子たちが彼に油を注いだ。そして「王万歳」と言った。

三 アタリヤは民の走りながら王をほめる声を聞いたので、主の宮に入り、民の所へ行つて、三 見ると、王は入口で柱のかたわらに立ち、王のかたわらには將軍たちとラッパ手が立つており、また国の民は皆喜んでラッパを吹き、歌をうたう者は楽器をもつてさんびしていたので、アタリヤは衣を裂いて「反逆だ、反逆だ」と叫んだ。四 その時エホヤダは軍勢を統率する百人の長たちを呼び出し、「列の間から彼女を連れ出せ、彼女に従う者をつるぎで殺せ」と言った。祭司が彼女を主の宮で殺してはならないと言つたからである。五 そこで人々は彼女に手をかけ、王の家の馬の門の入口まで連れて行き、その所で彼女を殺した。

六 エホヤダは自分とすべての民と王との間に、彼らは皆、主の民となるとの契約を結んだ。七 そこですべての民はバアルの家に行つて、それをこわし、その祭壇とその像とを打ち碎き、バアルの祭司マツタンを祭壇の前で殺した。八 エホヤダはまた主の宮の守衛を、祭司とレビびとの指揮のもとに置いた。このレビびとは昔ダビデがモーセの律法にしるされてゐるように、喜びと歌をもつて主に燔祭をささげるために、主の宮に配置したものであつて、今そのダビデの例になつたものである。九 彼はまた主の宮のもろもろの門に門衛を置き、汚れた者は何によつて汚れた者でも、はいらせないようにした。二こうしてエホヤダは百人の長たち、貴族たち、民

のつかさたちおよび国のすべての民を率いて、主の宮から王を連れ下り、上の門から王の家に進み、王を国の位につかせた。三國の民は皆喜んだ。町はアタリヤがつるぎで殺された後、穏やかであった。

第二十四章 ヨアシは位についた時七歳で、エルサレムで四十年の間、世を治めた。彼の母はベエルシバから出た者で名をデビアといった。ニヨアシは祭司エホヤダの世にある日の間は常に主の良しと見られることを行つた。三エホヤダは彼のためにふたりの妻をめぐり、彼に男子と女子が生れた。

四この後ヨアシは主の宮を修繕しようとして、祭司とレビびとを集めて言つた、「ユダの町々へ行って、あなたがたの神の宮を年々修繕する資金をすべてのイスラエルびとから集めなさい。その事を急いでしなさい」ところがレビびとはこれを急いでしなかつた。六それで王はかしらであるエホヤダを召して言つた、「あなたはなぜレビびとに求めて、主のしもべモーセがあかしの幕屋のためにイスラエルの会衆に課した税金をユダとエルサレムから取り立てさせないのか。七かの悪い女アタリヤの子らが神の宮に侵入して主の宮のもろもろの奉納物を取り、バアルのために用いたからである。

八そこで王は命じて一個の箱を造らせ、これを主の宮の門の外に置き、ユダとエルサレムにふれて、神のしもべモーセが荒野でイスラエルに課した税金を主のため

に持つてこさせた。九すべてのつかさたちおよびすべての民は皆喜んでその税金を持つて来て、その箱に投げ入れたので、ついに箱はいっぱいになった。二レビびとはその箱に金が多くあるのを見て、王の役人の所へ持つて行くと、王の書記と祭司長の下役とが来て、その箱を傾け、これを取つてもとの所に返した。彼らは日々このようにして金をおびただしく集めた。三王とエホヤダはこれを主の宮の工事をなす者に渡し、石工および木工を雇つて、主の宮を修繕させ、また鉄工および青銅工を雇つて、主の宮を修復させた。四工人たちは働いたので、修復の工事は彼らの手によつてはかどり、神の宮を、もとの状態に復し、これを堅固にした。五それをなし終つたとき、余つた金を王とエホヤダの前に持つて来たので、それをもつて主の宮のために器物を造つた。すなわち勤めの器、燔祭の器、香の皿、および金銀の器を造つた。エホヤダの世にある日の間は、絶えず主の宮で燔祭をささげた。六しかしエホヤダは年老い、日が満ちて死んだ。その死んだ時は百三十歳であつた。七人々は彼をダビデの町で王たちの中に葬つた。彼はイスラエルにおいて神とその宮とに良い事を行つたからである。

八エホヤダの死んだ後、ユダのつかさたちが来て、うやうやしく王に敬意を表した。王は彼らに聞き従つた。九彼らはその先祖の神、主の宮を捨てて、アシラ像および偶像に仕えたので、そのとがのために、怒りがユダと

エルサレムに臨んだ。主は彼らをご自分に引き返そうとして、預言者たちをつかわし、彼らにむかつてあかしをさせられたが、耳を傾けなかった。

そこで神の霊が祭司エホヤダの子ゼカリヤに臨んだので、彼は民の前に立ち上がって言った、「神はこう仰せられる、『あなたがたが主の戒めを犯して、災を招くのはどういうわけであるか。あなたがたが主を捨てたために、主もあなたがたを捨てられたのである』。しかし人々は彼を害しようとして計り、王の命によって、石をもって彼を主の宮の庭で撃ち殺した。このようにヨアシ王はゼカリヤの父エホヤダが自分に施した恵みを思わず、その子を殺した。ゼカリヤは死ぬ時、『どうぞ主がこれをみそなわして罰せられるように』と言った。

三年の終りになって、スリヤの軍勢はヨアシにむかつて攻め上り、ユダとエルサレムに来て、民のつかさたちをことごとく民のうちから滅ぼし、そのぶんどり物を皆ダマスコの王に送った。この時スリヤの軍勢は少数で来たのであるが、主は大軍を彼らの手に渡された。これは彼らがその先祖の神、主を捨てたためである。このように彼らはヨアシを罰した。

スリヤ軍はヨアシに大傷を負わせて捨て去ったが、ヨアシの家来たちは祭司エホヤダの子の血のために、党を結んで彼にそむき、彼を床の上に殺して、死なせた。人々は彼をダビデの町に葬ったが、王の墓には葬らな

かった。党を結んで彼にそむいた者は、アンモンの女シメアテの子ザバデおよびモアブの女シムリテの子ヨザバデであつた。ヨアシの子らのこと、ヨアシに対する多くの預言および神の宮の修理の事などは、列王の書の注釈に記されている。ヨアシの子アマジヤが彼に代つて王となつた。

第二章 アマジヤは王となつた時二十五歳で、二十九年の間エルサレムで世を治めた。その母はエルサレムの者で、名をエホアダンといった。アマジヤは主の良しと見られることを行つたが、全き心をもつてではなかつた。彼は、国が彼の手のうちに強くなつたとき、父ヨアシ王を殺害した家来たちを殺した。しかしその子供たちは殺さなかつた。これはモーセの律法の書に記されている所に従つたのであつて、そこに主は命じて、『父は子のゆえに殺されるべきではない。子は父のゆえに殺されるべきではない。おのおの自分の罪のゆえに殺されるべきである』と言われている。

アマジヤはユダの人々を集め、その氏族に従つて、千人の長に付属させ、または百人の長に付属させた。ユダとベニヤミンのすべてに行つた。そして二十歳以上の者を数えたところ、やりと盾をとつて戦いに臨みうる精兵三十万人を得た。彼はまた銀百タラントをもつてイスラエルから大勇士十万人を雇つた。その時、神の人が彼の所に来て言つた、『王よ、イスラエルの軍勢をあな

たと共に行かせてはいけません。主はイスラエルびと、すなわちエフライムのすべての人々とは共におられないからです。ハもしあなたがこのような方法で戦いに強くなろうと思うならば、神はあなたを敵の前に倒されるでしょう。神には助ける力があり、また倒す力があるからです。九アマジヤは神の人に言った、「それではわたしがイスラエルの軍隊に与えた百タラントをどうしましょうか」。神の人は答えた、「主はそれよりも多いものをあなたにお与えになることができます」。一〇そこでアマジヤはエフライムから来て自分に加わった軍隊を分離して帰らせたので、彼らはユダに対して激しい怒りを発し、火のように怒って自分の所に帰った。二しかしアマジヤは勇気を出し、その民を率いて塩の谷へ行き、セイルびと一万人を撃ち殺した。三またユダの人々はこのほかに一万人をいけどり、岩の頂に引いて行って岩の頂から彼らを投げ落したので、皆こなごなに碎けた。三三ところがアマジヤが自分と共に戦いに行かせないで帰してやった兵卒らが、サマリヤからベテホロンまでの、ユダの町々を襲って三千人を殺し、多くの物を奪い取った。

一四アマジヤはエドムびとを殺して帰った時、セイルびとの神々を携えてきて、これを安置して自分の神とし、これを礼拝し、これにささげ物をなした。一五それゆえ、主はアマジヤに向かって怒りを発し、預言者を彼につかわして言わせられた、「かの民の神々は自分の民をあなた

の手から救うことができなかったのに、あなたはどうしてそれを求めたのか」。一六彼がこう王に語ると、王は彼に、「われわれはあなたを王の顧問にしたのですか。やめなさい。あなたはどうして殺されようとするのですか」と言ったので、預言者はやめて言った、「あなたはこの事を行って、わたしのいさめを聞きいれないゆえ、神はあなたを滅ぼそうと定められたことをわたしは知っています」。

一七そこでユダの王アマジヤは協議の結果、人をエヒウの子エホアハズの子であるイスラエルの王ヨアシにつかわし、「さあ、われわれは互に顔をあわせよう」と言わせたとところ、一八イスラエルの王ヨアシはユダの王アマジヤに言い送った、「レバノンのいばらが、かつてレバノンの香柏に、『あなたの娘をわたしのむすこの妻に与えよ』と言い送ったところが、レバノンの野獣が通りかかって、そのいばらを踏み倒した。一九あなたは『見よ、わたしはエドムを撃ち破った』と言って心に誇り高ぶっている。しかしあなたは自分の家にとどまっていなさい。どうしてあなたは災を引き起して、自分もユダも共に滅びようとするのか」。

二〇しかしアマジヤは聞きいれなかった。これは神から出たのであって、彼らがエドムの神々を求めたので神は彼らを敵の手に渡されるためである。二一そこでイスラエルの王ヨアシは上って来て、ユダのベテシメシでユダの

王アマジャと顔を合わせたが、ユダはイスラエルに撃ち破られ、おのおのその天幕に逃げ帰った。その時イスラエルの王ヨアシはエホアハズの子ヨアシの子であるユダの王アマジャをベテシメシで捕えて、エルサレムに引いて行き、エルサレムの城壁をエフライム門から、隅の門まで四百キュビトほどをこわし、また神の宮のうちで、オベデエドムが守っていたすべての金銀およびもろもの器物ならびに王の家の財宝を奪い、また人質をとって、サマリヤに帰った。

ユダの王ヨアシの子アマジャはイスラエルの王エホアハズの子ヨアシが死んで後なお十五年生きながらえた。アマジャのその他の始終の行為は、ユダとイスラエルの列王の書に記してあるではないか。アマジャヤがそむいて、主に従わなくなった時から、人々はエルサレムにおいて党を結び、彼に敵したので、彼はラキシに逃げて行ったが、その人々はラキシに人をやって、彼をその所で殺させた。人々はこれを馬に負わせて持ってきて、ユダの町でその先祖たちと共にこれを葬った。

第二章 そこでユダの民は皆ウジャヤをとって王となし、その父アマジャに代らせた。時に十六歳であった。彼はエラテを建てて、これをふたたびユダのものにした。これはかの王がその先祖たちと共に眠った後であった。ウジャヤは王となった時十六歳で、エルサレムで五十二年の間世を治めた。その母はエルサレムの

者で名をエコリヤといった。ウジャヤは父アマジャがしたように、すべて主の良しと見られることを行なった。彼は神を恐れることを自分に教えたゼカリヤの世にある日の間、神を求めることに努めた。彼が主を求めた間、神は彼を榮えさせられた。

彼は出てペリシテびとと戦い、ガテの城壁、ヤブネの城壁およびアシドドの城壁をくずし、アシドドの地とペリシテびとのなかに町を建てた。神は彼を助けてペリシテびとと、グルバアルに住むアラビヤびとおよびメウニびとを攻め撃たせられた。ハアンモンびとはウジャヤにみつぎを納めた。ウジャヤは非常に強くなったので、その名はエジプトの入口までも広まった。ウジャヤはまたエルサレムの隅の門、谷の門および城壁の曲りかどにやぐらを建てて、これを堅固にした。彼はまた荒野にやぐらを建て、また多くの水ためを掘った。彼は平野にも平地にもたくさん家畜をもっていたからである。彼はまた農事を好んだので、山々および肥えた畑には農夫とぶどうをつくる者をもっていた。ウジャヤはまたよく戦う一軍団を持っていた。彼らは書記エイエルと、つかさマアセヤによって調べた数に従って組々に分れ、皆王の軍長のひとりハナニヤの指揮下にあった。三その氏族の長である大勇士の数は合わせて二千六百人であった。三その指揮下にある軍勢は三十万七千五百人で、皆大いなる力をもって戦い、王を助けて敵に当った。ウジャヤはそ

の全軍のために盾、やり、かぶと、よろい、弓および石投げの石を備えた。二五 彼はまたエルサレムで技術者の考案した機械を造って、これをやぐらおよび城壁のすみずみにすえ、これをもって矢および大石を射出した。こうして彼の名声は遠くまで広まった。彼が驚くほど神の助けを得て強くなったからである。

二六 ところが彼は強くなるに及んで、その心に高ぶり、ついに自分を滅ぼすに至った。すなわち彼はその神、主にむかつて罪を犯し、主の宮にはいつて香の祭壇の上に香をたこうとした。二七 その時、祭司アザリヤは主の祭司である勇士八十人を率いて、彼のあとに従ってはいり、一八 ウジヤ王を引き止めて言った、「ウジヤよ、主に香をたぐことはあなたのなすべきことではなく、ただアロンの子孫で、香をたぐために清められた祭司たちのすることです。すぐ聖所から出なさい。あなたは罪を犯しました。あなたは主なる神から栄えを得ることはできません」。一九 するとウジヤは怒りを発し、香炉を手にとって香をたこうとしたが、彼が祭司に向かつて怒りを発している間に、らい病がその額に起った。時に彼は主の宮で祭司たちの前、香の祭壇のかたわらにいた。二〇 祭司の長アザリヤおよびすべての祭司たちが彼を見ると、彼の額にらい病が生じていたので、急いで彼をそこから追い出した。彼自身もまた主に撃たれたことを知って、急いで出て行った。二一 ウジヤ王は、死ぬ日までらい病人であつ

た。彼はらい病人であつたので、離れ殿に住んだ。主の宮から断たれたからである。その子ヨタムが王の家をつかさどり、国の民を治めた。二二 ウジヤのその他の始終の行為は、アモツの子預言者イザヤがこれを書きしるした。二三 ウジヤは先祖たちと共に眠ったので、人々は「彼はらい病人である」と言つて、王たちの墓に連なる墓地に、その先祖たちと共に葬った。その子ヨタムが彼に代つて王となつた。

第二十七章 ヨタムは王となつた時二十五歳で、十六年の間エルサレムで世を治めた。その母はザドクの娘で名をエルシャといつた。二四 ヨタムはその父ウジヤがしたように主の良しと見られることをした。しかし主の宮には、はいらなかつた。民はなお悪を行つた。二五 彼は主の宮の上の門を建て、オペルの石がきを多く築き増し、二六 またユダの山地に数個の町を建て、林の間に城とやぐらを築いた。二七 彼はアンモンびとの王と戦つてこれに勝つた。その年アンモンの人々は銀百タラント、小麦一万コル、大麦一万コルを彼に贈つた。アンモンの人々は第二年にも第三年にも同じように彼に納めた。二八 ヨタムはその神、主の前にその行いを堅くしたので力ある者となつた。二九 ヨタムのその他の行為、そのすべての戦いおよびその行いなどは、イスラエルとユダの列王の書に記してある。三〇 彼は王となつた時、二十五歳で、十六年の間エルサレムで世を治めた。三一 ヨタムはその先祖

と共に眠ったので、ダビデの町に葬られ、その子アハズが彼に代つて王となった。

第二章 アハズは王となった時二十歳で、十六年の間エルサレムで世を治めたが、その父ダビデとは違つて、主の良しと見られることを行わず、ニイスラエルの王たちの道に歩み、またもろもろのバアルのために、^一 鑄た像を造り、^二 ベンヒンノムの谷で香をたき、その子らを火に焼いて供え物とするなど、主がイスラエルの人の前から追ひ払われた異邦人の憎むべき行いになら^三 い、^四 また高き所の上、丘の上、すべての青木の下で犠牲をささげ、香をたいた。

^五 それゆゑ、その神、主は彼をスリヤの王の手に渡されたので、スリヤびとは彼を撃ち破り、その民を多く捕虜として、ダマスコに引いて行つた。彼はまたイスラエルの王の手に渡されたので、イスラエルの王も彼を撃ち破つて大いに殺した。^六 すなわちレマリヤの子ペカはユダで一日のうちに十二万人を殺した。皆勇士であつた。これは彼らがその先祖の神、主を捨てたためである。その時、エフライムの勇士ジクリという者が王の子マアセヤ、宮内大臣アズリカムおよび王に次ぐ人エルカナを殺した。

ハイスラエルの人々はついにその兄弟のうちから婦人ならびに男子、女子など二十万人を捕虜にし、また多くのぶんどり物を取り、そのぶんどり物をサマリヤに持

て行つた。^九 その時そこに名をオデデという主の預言者があつて、サマリヤに歸つて来た軍勢の前に進み出て言つた、「見よ、あなたがたの先祖の神、主はユダを怒つて、これをあなたがたの手に渡されたが、あなたがたは天に達するほどの怒りをもつてこれを殺した。^{一〇} そればかりでなく、あなたがたは今、ユダとエルサレムの人々を従わせて、自分の男女の奴隷にしようと思つてゐる。しかしあなたがた自身もまた、あなたがたの神、主に罪を犯してゐるではないか。こいまわしに聞き、あなたがたがその兄弟のうちから捕えて来た捕虜を放ち歸らせなさい。主の激しい怒りがあなたがたの上に臨んでゐるからです」。^{一二} そこでエフライムびとのおもなる人々、すなわちヨハナンの子アザリヤ、メシリモテの子ベレキヤ、シャルムの子ヒゼキヤ、ハデライの子アマサらもまた、戦争から歸つた者どもに向かつて立ちあがり、^{一三} 彼らに言つた、「捕虜をここに引き入れてはならない。あなたがたはわたしどもに主に対するとがを得させて、さらにわれわれの罪とがを増し加えようとしてゐる。われわれのとがは大きく、激しい怒りがイスラエルの上に臨んでゐるからです」。^{一四} そこで兵卒どもがその捕虜とぶんどり物をつかさたちと全会衆の前に捨てておいたので、^{一五} 前に名をあげた人々が立つて捕虜を受け取り、ぶんどり物のうちから衣服をとつて、裸の者に着せ、また、くつをはかせ、食ひ飲みさせ、油を注ぎなどし、その弱い者を

皆ろばに乗せ、こうして彼らをしゆるの町エリコに連れて行って、その兄弟たちに渡し、そしてサマリヤに帰つて来た。

一六 その時アハズ王は人をアッスリヤの王につかわして助けを求めさせた。一七 エドムびとが再び侵入してユダを撃ち、民を捕え去ったからである。一八 ベリシテびともまた平野の町々およびユダのネゲブの町々を侵して、ベテシメシ、アヤロン、ゲデロテおよびソコとその村里、テムナとその村里、ギムゾとその村里を取つて、そこに住んだ。一九 これはイスラエルの王アハズのゆえに、主がユダを低くされたのであつて、彼がユダのうちにみだらなことを行い、主に向かつて大いに罪を犯したからである。二〇 アッスリヤの王テルガデ・ビルネセルは彼の所に來たが、彼に力を添えないで、かえつて彼を悩ました。二一 アハズは主の宮と王の家、およびつかさたちの家の物を取つてアッスリヤの王に与えたが、それはアハズの助けにはならなかつた。

二三 このアハズ王はその悩みの時にあつて、ますます主に罪を犯した。二三 すなわち、彼は自分を撃つたダマスコの神々に、犠牲をささげて言った、「スリヤの王たちの神々はその王たちを助けるから、わたしもそれに犠牲をささげよう。そうすれば彼らはわたしを助けるであろう」と。しかし、彼らはかえつてアハズとイスラエル全国とを倒す者となつた。二四 アハズは神の宮の器物を集め

て、神の宮の器物を切り破り、主の宮の戸を閉じ、エルサレムのすべてのすみずみに祭壇を造り、二五 ユダのすべての町々に高き所を造つて、他の神々に香をたきなどして、先祖の神、主の怒りを引き起した。二六 アハズのその他の始終の行為およびそのすべての行動は、ユダとイスラエルの列王の書にしるされている。二七 アハズはその先祖たちと共に眠つたので、エルサレムの町にこれを葬つた。しかし、イスラエルの王たちの墓には持つて行かなかつた。その子ヒゼキヤが彼に代つて王となつた。

第二十九章 ヒゼキヤは王となつた時二十五歳で、二十九年の間エルサレムで世を治めた。その母はアビヤと言つて、ゼカリヤの娘である。ニヒゼキヤは父ダビデがすべてなしたように主の良しと見られることをした。

三 彼はその治世の第一年の一月に主の宮の戸を開き、かつこれを繕つた。四 彼は祭司とレビびとを連れていつて、東の広場に集め、五 彼らに言つた、「レビびとよ、聞きなさい。あなたがたは今、身を清めて、あなたがたの先祖の神、主の宮を清め、聖所から汚れを除き去りなさい。六 われわれの先祖は罪を犯し、われわれの神、主の悪と見られることを行つて、主を捨て、主のすまいに顔をそむけ、うしろを向けた。七 また廊の戸を閉じ、ともしびを消し、聖所でイスラエルの神に香をたかず、燔祭をささげなかつた。八 それゆえ、主の怒りはユダとエルサレムに臨み、あなたがたが目に見るように、主は彼ら

を恐れと驚きと物笑いにされた。九見よ、われわれの父たちはつるぎにたおれ、われわれのむすこたち、むすめたち、妻たちはこれがために捕虜となった。一〇今わたしは、イスラエルの神、主と契約を結ぶ志をもっている。そうすればその激しい怒りは、われわれを離れるであろう。二わが子らよ、今は怠ってはならない。主はあなたがたを選んで、主の前に立つて仕えさせ、ご自分に仕える者となし、また香をたく者とされたからである。

三そこでレビびとは立ち上がった。すなわちコハテびとの子孫のうちでは、アマサイの子マハテおよびアザリヤの子ヨエル。メラリの子孫では、アブデの子キシおよびエハレレルの子アザリヤ。ゲルシオンびとのうちでは、ジンマの子ヨアおよびヨアの子エデン。四エリザパンの子孫のうちでは、シムリとエイエル。アサフの子孫のうちでは、ゼカリヤとマッタニヤ。五ヘマンの子孫のうちでは、エヒエルとシメイ。エドトンの子孫のうちでは、シマヤとウジエルである。六彼らはその兄弟たちを集めて身を清め、主の言葉による王の命令に従って、主の宮を清めるためにはいつて来た。七祭司たちが主の宮の奥にはいつてこれを清め、主の宮にあった汚れた物をことごとく主の宮の庭に運び出すと、レビびとはそれを受け外に出し、キデロン川に持って行った。八彼らは正月の元日に清めることを始めて、その月の八日に主の宮の廊に達した。それから主の宮を清めるのに八日を費し、

正月の十六日にこれを終った。九そこで彼らはヒゼキヤ王の所へ行つて言った、「われわれは主の宮をことごとく清め、また燔祭の壇とそのすべての器物、および供えのパンの机とそのすべての器物とを清めました。一〇またアハズ王がその治世に罪を犯して捨てたすべての器物をも整えて清めました。それらは主の祭壇の前にあります」。

二〇そこでヒゼキヤ王は朝早く起きいで、町のつかさたちを集めて、主の宮に上って行き、三雄牛七頭、雄羊七頭、小羊七頭、雄やぎ七頭を引いてこさせ、国と聖所とユダのためにこれを祭壇とし、アロンの子孫である祭司たちに命じてこれを主の祭壇の上にささげさせた。三すなわち、雄牛をほふると、祭司たちはその血を受けて祭壇にふりかけ、また雄羊をほふると、その血を祭壇にふりかけ、また小羊をほふると、その血を祭壇にふりかけた。三三そして罪祭の雄やぎを王と会衆の前に引いて来たので、彼らはその上に手を置いた。三四そして祭司たちはこれをほふり、その血を罪祭として祭壇の上にささげてイスラエル全国のためにあがないをした。これは王がイスラエル全国のために燔祭および罪祭をささげることが命じたためである。

三五王はまたレビびとを主の宮に置き、ダビデおよび王の先見者ガドと預言者ナタンの命令に従って、これにシンバル、立琴および琴をとらせた。これは主がその預言者によって命じられたところである。三六こうしてレビび

とはダビデの樂器をとり、祭司はラッパをとって立つた。
 二七そこでヒゼキヤは燔祭を祭壇の上にささげること命
 じた。燔祭をささげ始めた時、主の歌をうたい、ラッパ
 を吹き、イスラエルの王ダビデの樂器をならし始めた。
 二八そして會衆は皆礼拝し、歌うたう者は歌をうたい、
 ラッパ手はラッパを吹き鳴らし、燔祭が終るまですべて
 このようであつたが、二九ささげる事が終ると、王および
 彼と共にいた者はみな身をかがめて礼拝した。三〇またヒ
 ゼキヤ王およびつかさたちはレビびとに命じて、ダビデ
 と先見者アサフの言葉をもつて主をさんびさせた。彼ら
 は喜んでさんびし、頭をさげて礼拝した。

三一その時、ヒゼキヤは言つた、「あなたがたはすでに主
 に仕えるために身を清めたのであるから、進みよつて、
 主の宮に犠牲と感謝の供え物を携えて来なさい」と。そ
 こで會衆は犠牲と感謝の供え物を携えて来た。また志あ
 る者は皆燔祭を携えて来た。三二會衆の携えて来た燔祭の
 数は雄牛七十頭、雄羊百頭、小羊二百頭、これらは皆主
 に燔祭としてささげるものであつた。三三また奉納物は牛
 六百頭、小羊三千頭であつた。三四ところが祭司が少なく
 てその燔祭の物の皮を、はぎつくすことができなかった
 ので、その兄弟であるレビびとがこれを助けて、そのわ
 ざをなし終え、その間に他の祭司たちは身を清めた。こ
 れはレビびとが祭司たちよりも、身を清めることに、き
 ちようめんであつたからである。三五このほかおびたし

い燔祭があり、また、酬恩祭の脂肪および燔祭の灌祭も
 あつた。こうして、主の宮の勤めは回復された。三六この
 事は、にわかになされたけれども、神がこのように民の
 ために備えをされたので、ヒゼキヤおよびすべての民は
 喜んだ。

第三〇章

一ヒゼキヤはイスラエルとユダにあま
 ねく人をつかわし、また手紙をエフライムとマナセに書
 き送り、エルサレムにある主の宮に来て、イスラエルの
 神、主に過越の祭を行うように勧めた。二王はすでにつ
 かさたちおよびエルサレムにおける全會衆に計つて、二月
 に過越の祭を行うことを定めた。三——これは身を清め
 た祭司の数が足らず、民もまた、エルサレムに集まらな
 かつたので、正月にこれを行うことができなかったから
 である。四この事が、王にも全會衆にも良かったので、
 五この事を定めて、ベエルシバからダンまでイスラエル
 にあまねくふれ示し、エルサレムに来て、イスラエルの
 神、主に過越の祭を行うことを勧めた。これはしるされ
 ているように、これを行う者が多くなかつたゆえであ
 る。六そこで飛脚たちは、王とそのつかさたちから受け
 た手紙をもつて、イスラエルとユダをあまねく行き巡り、
 王の命を伝えて言つた、「イスラエルの人々よ、あなたが
 たはアブラハム、イサク、イスラエルの神、主に立ち
 返りなさい。そうすれば主は、アッスリヤの王たちの手
 からのがれた残りのあなたがたに、歸られるでしう。

七 あなたがたの父たちおよび兄弟たちのようになつてはならない。彼らはその先祖たちの神、主にむかつて罪を犯したので、あなたがたの見るように主は彼らを滅びに渡されたのです。八 あなたがたの父たちのように強情にならないうで、主に帰服し、主がとこしえに聖別された聖所に入り、あなたがたの神、主に仕えなさい。そうすれば、その激しい怒りがあなたがたを離れるでしょう。九 もしあなたがたが主に立ち返るならば、あなたがたの兄弟および子供は、これを捕えていった者の前にあわれみを得て、この国に帰ることができるよう。あなたがたの神、主は恵みあり、あわれみある方であられるゆえ、あなたがたが彼に立ち返るならば、顔をあなたがたにそむけられることはありません。

一〇 このように飛脚たちは、エフライムとマナセの国にはいつて、町から町に行き巡り、ついに、ゼブルンまで行ったが、人々はこれをあざけり笑った。二 ただしアセル、マナセ、ゼブルンのうちには身を低くして、エルサレムにきた人々もあつた。三 またエダにおいては神の手が人々に一つ心を与えて、王とつかさたが主の言葉によつて命じたことを行わせた。

二三 こうして二月になつて、多くの民は、種入れぬパンの祭を行うためエルサレムに集まつたが、非常に大きな会衆であつた。二四 彼らは立つてエルサレムにあるもろろの祭壇を取り除き、またすべての香をたく祭壇を取り

除いてキデロン川に投げすて、二五 二月の十四日に過越の小羊をほふつた。そこで祭司たちおよびレビびとはみずから恥じ、身を清めて主の宮に燔祭を携えて来た。二六 彼らは神の人モーセの律法に従い、いつものようにその所に立ち、祭司たちは、レビびとの手から血を受けて注いだ。二七 時に、会衆のうちにまだ身を清めていない者が多かつたので、レビびとはその清くないすべての人々に代つて過越の小羊をほふり、主に清めてささげた。二八 多くの民すなわちエフライム、マナセ、イッサカル、ゼブルンからきた多くの者はまだ身を清めていないのに、書きしるされたとおりにしないで過越の物を食べた。それでヒゼキヤは、彼らのために祈つて言つた、「恵みふかき主よ、彼らをゆるしてください。一九 彼らは聖所の清めの規定どおりにしなかつたけれども、その心を傾けて神を求め、その先祖の神、主を求めたのです。三〇 主はヒゼキヤに聞いて、民をいやされた。三一 そこでエルサレムに來ていたイスラエルの人々は大いなる喜びをいだいて、七日のあいだ種入れぬパンの祭を行った。またレビびとと祭司たちは日々に主をさんびし、力をつくして主をたたえた。三二 そしてヒゼキヤは主の勤めによく通じているすべてのレビびとを深くねぎらつた。こうして人々は酬恩祭の犠牲をささげ、その先祖の神、主に感謝して、七日のあいだ祭の供え物を食べた。

三三 なお全会衆は相はかつて、さらに七日のあいだ祭を

守ることを定め、喜びをもつてまた七日のあいだ守った。
 二四時にユダの王ヒゼキヤは雄牛一千頭、羊七千頭を会衆に贈り、また、つかさたちは雄牛一千頭、羊一万頭を会衆に贈った。祭司もまた多く身を清めた。二五ユダの全会衆および祭司、レビびと、ならびにイスラエルからきた全会衆、およびイスラエルの地からきた他国人と、ユダに住む他国人は皆喜んだ。二六このようにエルサレムに大いなる喜びがあった。イスラエルの王ダビデの子ソロモンの時からこのかた、このような事はエルサレムになかった。二七このとき祭司たちとレビびとは立って、民を祝福したが、その声は聞かれ、その祈は主の聖なるすみかである天に達した。

第三一章 一この事がすべて終った時、そこにいたイスラエルびとは皆、ユダの町々に出て行って、石柱を碎き、アシラ像を切り倒し、ユダとベニヤミンの全地、およびエフライムとマナセにある高き所と祭壇とを取りこわし、ついにこれをことごとく破壊した。そしてイスラエルの人々はおのおのその町々、その所領に帰った。

ニヒゼキヤは祭司およびレビびとの班を定め、班ごとにおのおのその勤めに従って、祭司とレビびとに燔祭と酬恩祭をささげさせ、主の営の門で勤めをし、感謝をし、さんびをさせた。三また燔祭のために自分の財産のうちから王の分を出した。すなわち朝夕の燔祭および安息日、新月、定め祭などの燔祭のために出して、主の律法に

しるされているとおりにした。四またエルサレムに住む民に、祭司とレビびとにその分を与えることを命じた。これは彼らをして主の律法に身をゆだねさせるためである。五その命令が伝わるやいなや、イスラエルの人々は穀物、酒、油、蜜ならびに畑のもろもろの産物の初物を多くささげ、またすべての物の十分の一をおびたたく携えて来た。六ユダの町々に住んでいたイスラエルとユダの人々もまた牛、羊の十分の一ならびにその神、主にささげられた奉納物を携えて来て、これを積み重ねた。七三月にこれを積み重ねることを始め、七月にこれを終った。八ヒゼキヤおよびつかさたちは来て、その積み重ねた物を見、主とその民イスラエルを祝福した。九そしてヒゼキヤがその積み重ねた物について祭司およびレビびとに問い尋ねた時、一〇ザドクの家から出た祭司の長アザリヤは彼に答えて言った、「民が主の宮に供え物を携えて来ることを始めてからこのかた、われわれは飽きるほど食べたが、たくさん残りました。主がその民を恵まれたからです。それでわれわれは、このように多くの残った物をもっているのです」。

二そこでヒゼキヤは主の宮のうちに室を設けることを命じたので、彼らはこれを設け、三その供え物の十分の一および奉納物を忠実に携え入れた。これをつかさどる者のかしらはレビびとコナニヤで、その兄弟シメイは彼に次ぐ者となり、二三エヒエル、アザジャ、ナハテ、アサ

ヘル、エレモテ、ヨザバデ、エリエル、イスマキヤ、マハテ、ベナヤらは、ヒゼキヤ王および神の宮のつかさアザリヤの任命によつて、コナニヤおよびその兄弟シメイを助けて、その監督者となつた。二東の門を守る者レビビとイムナの子コレは、神にささげる自発のささげ物をつかさどり、主の供え物および最も聖なる物を分配した。二五彼を助ける者はエデン、ミニヤミン、エシユア、シマヤ、アマリヤおよびシカニヤで、皆祭司の町々でその兄弟たちに、班によつて、老若ひとしく忠実に分配した。二六ただしすべて登録された三歳以上の男子で主の宮に入り、その班に従つて日々の職分をつくし、その受持の勤めをなす者は除かれた。二七祭司の登録はその氏族によつてなされ、二十歳以上のレビビとの登録はその班により、その受持にしたがつてなされた。二八また祭司はその幼な子、その妻、そのむすこ、その娘、全会衆と共に登録した。彼らは忠実に身を聖なる事にささげたからである。二九また町々の放牧地におけるアロンの子孫である祭司たちのためには、町ごとに人を名ざし選んで、祭司のうちのすべての男およびレビビとのうちの登録されたすべての者に、その分を与えさせた。

三〇ヒゼキヤはユダ全国にこのようにし、良い事、正しい事、忠実な事をその神、主の前に行つた。三彼がその神を求めるために神の宮の務につき、律法につき、戒めについて始めたわざは、ことごとく心をつくして行ひ、

これをなし遂げた。

第三章

一ヒゼキヤがこれらの事を忠実に行つた後、アッスリヤの王セナケリブが来てユダに侵入し、堅固な町々に向かつて陣を張り、これを攻め取ろうとした。二ヒゼキヤはセナケリブが来て、エルサレムを攻めようとするのを見たので、三そのつかさたちおよび勇士たちと相談して、町の外にある泉の水を、ふさごうとした。彼らはこれを助けた。四多くの民は集まつて、すべての泉および国の中を流れる谷川をふさいで言つた、「アッスリヤの王たちがきて、多くの水を得られるようなことをしておいていいだろうか」。五ヒゼキヤはまた勇氣を出して、破れた城壁をことごとく築き直して、その上にやぐらを建て、その外にまた城壁を巡らし、ダビデの町のミロを堅固にし、武器および盾を多く造り、六軍長を民の上に置き、町の門の広場に民を集めて、これを励まして言つた、七「心を強くし、勇みたちなさい。アッスリヤの王をも、彼と共にいるすべての群衆をも恐れてはならない。おののいてはならない。われわれと共にいる者は彼らと共にいる者よりも大いなる者だからである。八彼と共にいる者は肉の腕である。しかしわれわれと共にいる者はわれわれの神、主であつて、われわれを助け、われわれに代つて戦われる」。民はユダの王ヒゼキヤの言葉に安心した。

九この後アッスリヤの王セナケリブはその全軍をもつ

てラキシを囲んでいたが、その家来をエルサレムにつか
わして、ユダの王ヒゼキヤおよびエルサレムにいるすべ
てのユダの人に告げさせて言った、「ヨアッスリヤの王
セナケリブはこう言います、『あなたがたは何を頼んでエ
ルサレムにこもっているのか。ヒゼキヤは「われわれ
の神、主がアッスリヤの王の手から、われわれを救って
くださる」と言つて、あなたがたをそそのかし、飢えと、
かわきをもつて、あなたがたを死なせようとしているの
ではないか。三このヒゼキヤは主のもろもろの高き所と
祭壇を取り除き、ユダとエルサレムに命じて、『あなたが
たはただ一つの祭壇の前で礼拝し、その上に犠牲をささ
げなければならぬ』と言つた者ではないか。三あなたが
たは、わたしおよびわたしの先祖たちが、他の国々の
すべての民にしたことを知らないのか。それらの国々の
民の神々は、少しでもその国を、わたしの手から救い出
すことができたか。四わたしの先祖たちが滅ぼし尽した
それらの国民のもろもろの神のうち、だれか自分の民を
わたしの手から救い出すことのできたものがあるか。そ
れで、どうしてあなたがたの神が、あなたがたをわたし
の手から救い出すことができよう。五それゆえ、あなた
がたはヒゼキヤに欺かれてはならない。そそのかされて
はならない。また彼を信じてはならない。いづれの民
いづれの国の神もその民をわたしの手、または、わたし
の先祖の手から救いだすことができなかつたのだから、

ましてあなたがたの神が、どうしてわたしの手からあな
たがたを救いだすことができようか』。

二六セナケリブの家来は、このほかにも多く主なる神、
およびそのしもべヒゼキヤをそしつた。二七セナケリブは
また手紙を書き送つて、イスラエルの神、主をあざけり、
かつそしつて言った、「諸国の民の神々が、その民をわた
しの手から救い出さなかつたように、ヒゼキヤの神も、
その民をわたしの手から救い出さないであらう」と。
二八そして彼らは大声をあげ、ユダヤの言葉をもつて、城
壁の上にいるエルサレムの民に向かって叫び、これをお
どし、かつおびやかした。彼らは町を取るためである。
二九このように彼らがエルサレムの神について語ること、
人の手のわざである地上の民の神々について語るようであ
つた。

三〇そこでヒゼキヤ王およびアモツの子預言者イザヤは
共に祈つて、天に呼ばわたしたので、三主はひとりのみ使
をつかわして、アッスリヤ王の陣営にいるすべての大勇
士と将官、軍長らを滅ぼされた。それで王は赤面して自
分の国に帰つたが、その神の家にはいった時、その子の
ひとり、つるぎをもつて彼をその所で殺した。三この
ように主は、ヒゼキヤとエルサレムの住民をアッスリヤ
の王セナケリブの手およびすべての敵の手から救い出
し、いたる所で彼らを守られた。三三そこで多くの人々は
ささげ物をエルサレムに携えてきて主にささげ、また宝

物をユダの王ヒゼキヤに贈った。この後ヒゼキヤは万国の民に尊ばれた。

二四 そのころ、ヒゼキヤは病んで死ぬばかりであつたが、主に祈つたので、主はこれに答えて、しるしを賜わつた。二五 しかしヒゼキヤはその受けた恵みに報いることをせず、その心が高ぶつたので、怒りが彼とユダおよびエルサレムに臨もうとしたが、二六 ヒゼキヤはその心の高ぶりを悔いてへりくだり、またエルサレムの住民も同様にしたので、主の怒りは、ヒゼキヤの世には彼らに臨まなかつた。

二七 ヒゼキヤは富と榮譽をきわめ、宝蔵を造つて、金、銀、宝石、香料、盾および各種の尊い器物をおさめ、二八 また倉庫を造つて穀物、酒、油などの産物をおさめ、小屋を造つて種々の家畜を置き、おりを造つて羊の群れを置き、二九 また多数の町を設け、かつ羊と牛をおびただしく所有した。神が非常に多くの貨財を彼に賜わつたからである。三〇 このヒゼキヤはまたギホンの水の上の源をふさいで、これをダビデの町の西の方にまっすぐに引き下した。このようにヒゼキヤはそのすべてのわざをなし遂げた。三一 しかしバビロンの君たちが使者をつかわして、この国にあつた、しるしについて尋ねさせた時には、神は彼を試みて、彼の心にあることを、ことごとく知るために彼を捨て置かれた。

三二 ヒゼキヤのその他の行為およびその徳行は、アモツ

の子預言者イザヤの黙示とユダとイスラエルの列王の書にしるされている。三三 ヒゼキヤはその先祖たちと共に眠つたので、ダビデの子孫の墓のうちの高い所に葬られた。ユダの人々およびエルサレムの住民は皆その死に當つて彼に敬意を表した。その子マナセが彼に代つて王となつた。

第三三章 マナセは十二歳で王となり、五十五

年の間エルサレムで世を治めた。二 彼は主がイスラエルの人々の前から追ひ払われた国々の民の憎むべき行いに見ならつて、主の目の前に悪を行つた。三 すなわち、その父ヒゼキヤがこわした高き所を再び築き、またもろもろのパアルのために祭壇を設け、アシラ像を造り、天の万象を拜んで、これに仕え、四 また主が「わが名は永遠にエルサレムにある」と言われた主の宮のうちに数個の祭壇を築き、五 主の宮の二つの庭に天の万象のために祭壇を築いた。六 彼はまたベンヒンノムの谷でその子供を火に焼いて供え物とし、占いをし、魔法をつかい、まじないを行い、口寄せと、占い師を任用するなど、主の前に多くの悪を行つて、その怒りをひき起した。七 彼はまた刻んだ偶像を造つて神の宮に安置した。神はこの宮についてダビデとその子ソロモンに言われたことがある。「わたしはこの宮と、わたしがイスラエルのすべての部族のうちから選んだエルサレムとに、わたしの名を永遠に置く。八 彼らがもし、わたしがすべて命じた事、すな

わち、モーセが伝えたすべての律法と定めとおきてとを慎んで行うならば、わたしがあなたがたの先祖のために定めた地から、重ねてイスラエルの足を移すことをしない」と。九 マナセはこのようにユダとエルサレムの住民を迷わせ、主がイスラエルの人々の前に滅ぼされた国々の民にもまさって悪を行わせた。

一〇 主はマナセおよびその民に告げられたが、彼らは心に留めなかった。二 それゆえ、主はアッスリヤの王の軍勢の諸將をこれに攻めこさせられたので、彼らはマナセをかぎで捕え、青銅のかせにつないで、バビロンに引いて行った。三 彼は悩みにあうに及んで、その神、主に願いを求め、その先祖の神の前に大いに身を低くして、四 神に祈ったので、神はその祈を受けいれ、その願いを聞き、彼をエルサレムに連れ帰って、再び国に臨ませられた。これによってマナセは主こそ、まことに神にいますことを知った。

一四 この後、彼はダビデの町の外の石がきをギホンの西の方の谷のうちに築き、魚の門の入口にまで及ぼし、またオペルに石がきをめぐらして、非常に高くこれを築き上げ、ユダのすべての堅固な町に軍長を置き、一五 また主の宮から、異邦の神々および偶像を取り除き、主の宮の山とエルサレムに自分で築いたすべての祭壇を取り除いて、町の外に投げ捨て、一六 主の祭壇を築き直して、酬恩祭および感謝の犠牲を、その上にささげ、ユダに命じて

イスラエルの神、主に仕えさせた。一七 しかし民は、なお高き所で犠牲をささげた。ただしその神、主にのみささげた。

一八 マナセのそのほかの行為、その神にささげた祈、およびイスラエルの神、主の名をもって彼に告げた先見者たちの言葉は、イスラエルの列王の記録のうちにしるされてゐる。一九 またその祈と、祈の聞かれた事、そのものもろの罪と、二〇 が、その身を低くする前に高き所を築いて、アシラ像および刻んだ像を立てた場所などは、先見者の記録のうちにしるされてゐる。二一 マナセはその先祖たちと共に眠ったので、その家に葬られた。その子アモンが彼に代って王となった。

二二 アモンは王となった時二十二歳で、二年の間エルサレムで世を治めた。二三 彼はその父マナセのしたように主の前に悪を行った。すなわちアモンはその父マナセが造ったものもろの刻んだ像に犠牲をささげて、これに仕え、二四 その父マナセが身を低くしたように主の前に身を低くしなかった。かえってこのアモンは、いよいよそのとがを増した。二五 その家来たちは党を結んで彼にそむき、彼をその家で殺した。二六 しかし国の民は、党を結んでアモン王にそむいた者どもをことごとく撃ち殺した。そして国の民はその子ヨシヤを王となして、そのあとを継がせた。

第三四章 一 ヨシヤは八歳のとき王となり、エル

サレムで三十一年の間世を治めた。二彼は主の良しと見られることをなし、その父ダビデの道を歩んで、右にも左にも曲らなかつた。三彼はまだ若かつたが、その治世の第八年に父ダビデの神を求めることを始め、その十二年には高き所、アシラ像、刻んだ像、鑄た像などを除いて、ユダとエルサレムを清めることを始め、四もろもろのバアルの祭壇を、自分の前で打ちこわさせ、その上に立っていた香の祭壇を切り倒し、アシラ像、刻んだ像、鑄た像を打ち砕いて粉々にし、これらの像に犠牲をささげた者どもの墓の上にそれをまき散らし、五祭司らの骨をそのもろもろの祭壇の上で焼き、こうしてユダとエルサレムを清めた。六またマナセ、エフライム、シメオンおよびナフタリの荒れた町々にもこのようにし、七もろもろの祭壇をこわし、アシラ像およびもろもろの刻んだ像を粉々に打ち砕き、イスラエル全国の香の祭壇をことごとく切り倒して、エルサレムに帰った。

八ヨシヤはその治世の十八年に、国と宮とを清めた時、その神、主の宮を繕わせようと、アザリヤの子シヤパン、町のつかさマアセヤおよびヨアハズの子史官ヨアをつかわした。九彼らは大祭司ヒルキヤのもとへ行つて、神の宮にはいった金を渡した。これは門を守るレビびとがマナセ、エフライムおよびその他のすべてのイスラエル、ならびにユダとベニヤミンのすべての人、およびエルサレムの住民の手から集めたものである。一〇彼らはこれを

主の宮を監督する職工らの手に渡したので、主の宮で働く職工らは、これを宮を繕い直すために支払った。二すなわち、大工および建築者にこれを渡して、ユダの王たちが破った建物のために、切り石および骨組の材木を買わせ、梁材を整えさせた。三その人々は忠実に仕事をした。その監督者はメラリの子孫であるレビびとヤハテとオバデヤ、およびコハテびとの子孫であるゼカリヤとメシラムであつて、工事をつかさどつた。また楽器に巧みなレビびとがこれに伴つた。四彼らはまた荷を負う者を監督し、様々の仕事に働くすべての者をつかさどつた。また他のレビびとは書記となり、役人となり、また門衛となつた。

一四さて彼らが主の宮にはいった金を取りだした時、祭司ヒルキヤはモーセの伝えた主の律法の書を発見した。一五そこでヒルキヤは書記官シヤパンに言った、「わたしは主の宮で律法の書を発見しました」と。そしてヒルキヤはその書をシヤパンに渡した。一六シヤパンはその書を王のもとに持つて行き、さらに王に復命して言った、「しもべらはゆだねられた事をことごとくなし、七主の宮にあつた金をあけて、監督者の手および職工の手に渡ししました。一八書記官シヤパンはまた王に告げて、「祭司ヒルキヤはわたしに一つの書物を渡しました」と言い、シヤパンはそれを王の前で読んだ。

一九王はその律法の言葉を聞いて衣を裂いた。二〇そして

王はヒルキヤおよびシャパンの子アヒカムとミカの子アブドンと書記官シャパンと王の家来アサヤとに命じて言った、**二三**「あなたがたは行って、この発見された書物の言葉についてわたしのために、またイスラエルとユダの残りの者のために主に問いなさい。われわれの先祖たちが主の言葉を守らず、すべてこの書物にしろされていることを行わなかったので、主はわれわれに大いなる怒りを注がれるからです」。

三そこでヒルキヤおよび王のつかわした人々は、シャルムの妻である女預言者ホルダのもとへ行つた。シャルムはハスラの子であるトクハテの子で、衣装を守る者である。時にホルダは、エルサレムの第二区に住んでいた。彼らはホルダにその趣意を語つたので、**三三**ホルダは彼らに言った、「イスラエルの神、主はこう仰せられます、『あなたがたをわたしにつかわした人に告げなさい。』主はこう仰せられます。見よ、わたしはユダの王の前で読んだ書物にしろされているもの、すなわち災をこの所と、ここに住む者に下す。彼らはわたしを捨てて、他の神々に香をたき、自分の手で造つたものもある。物をもつて、わたしの怒りを引き起そうとしたからである。それゆえ、わたしの怒りは、この所に注がれて消えない。**三六**しかしあなたがたをつかわして、主に問わせるユダの王にはこう言いなさい。イスラエルの神、主はこう仰せられる。あなたが聞いた言葉については、**三七**こ

の所と、ここに住む者を責める神の言葉を、あなたが聞いた時、心に悔い、神の前に身をひくくし、わたしの前にへりくだり、衣を裂いて、わたしの前に泣いたので、わたしもまた、あなたに聞いた、と主は言われる。**三八**見よ、わたしはあなたがたを先祖たちのもとに集める。あなたは安らかにあなたの墓に集められる。あなたはわたしがこの所と、ここに住む者に下すもの、災を目に見ることがない』と。彼らは王に復命した。

三九そこで王は人をつかわしてユダとエルサレムの長老をことごとく集め、**四〇**そして王は主の宮に上つて行つた。ユダのすべての人々、エルサレムの住民、祭司、レビびと、およびすべての民は、老いた者も若い者もことごとく彼に従つた。そこで王は主の宮で発見した契約の書の言葉を、ことごとく彼らの耳に読み聞かせ、**四一**そして王は自分の所に立って、主の前に契約を立て、主に従つて歩み、心をつくし、精神をつくして、その戒めと、あかしと定めとをまもり、この書にしろされた契約の言葉を行おうと言ひ、**四二**エルサレムおよびベニヤミンの人々を皆これに加わらせた。エルサレムの住民は先祖の神であるその神の契約にしたがうて行つた。**四三**ヨシヤはイスラエルの人々に属するすべての地から、憎むべきものをことごとく取り除き、イスラエルにいるすべての人をその神、主に仕えさせた。ヨシヤが世にある日の間は、彼らは先祖の神、主に従つて離れなかった。

第三章 第五章

一 ヨシヤはエルサレムで主に過越の祭を行つた。すなわち正月の十四日に過越の小羊をほふらせ、二祭司にその職務をとり行わせ、彼らを励まして主の宮の務をさせ、三また主の聖なる者となつてすべてのイスラエルびとを教えるレビびとに言った、「あなたがたはイスラエルの王ダビデの子ソロモンの建てた宮に、聖なる箱を置きなさい。再びこれを肩になうに及ばない。あなたがたの神、主およびその民イスラエルに仕えなさい。四あなたがたはイスラエルの王ダビデの書、およびその子ソロモンの書に基いて氏族にしたがい、その班によつて、みずから備えをなし、五あなたがたの兄弟である民の人々の氏族の区分にしたがつて聖所に立ち、このためにレビびとの氏族の分が欠けることのないようにしなさい。六あなたがたは過越の小羊をほふり、身を清め、あなたがたの兄弟のために備えをし、モーセが伝えた主の言葉にしたがつて行いなさい。

七 ヨシヤは、小羊および子やぎを民の人々に贈つた。これは皆その所に在るすべての人のための過越の供え物であつて、その数三万、また雄牛三千を贈つた。それらは王の所有から出したのである。八そのつかさたちも民と祭司とレビびとに真心から贈つた。また神の宮のつかさたちヒルキヤ、ゼカリヤ、エヒエルも小羊と子やぎ二千六百頭、牛三百頭を祭司に与えて過越の供え物とした。九またレビびとの長である人々すなわちコナニヤお

よびその兄弟シマヤ、ネタンエルならびにハシヤビヤ、エイエル、ヨザバデなども小羊と子やぎ五千頭、牛五百頭をレビびとに贈つて過越の供え物とした。

一〇このように勤めることが備わつたので、王の命に従つて祭司たちはその持ち場に立ち、レビびとはその班に従つて仕え、一やがて過越の小羊がほふられたので、祭司はその血を受け取つて注いだ。レビびとはその皮をはいだ。三それから燔祭の物を取り分け、それを民の人々の氏族の区分に従つて渡し、主にささげさせた。これはモーセの書に記したとおりである。また牛をもこのようにした。三そして定めに従つて過越の小羊を火であぶり、その他の聖なる供え物を深なべ、かま、浅なべなどに煮て、急いですべての民の人々にくばつた。四その後、彼らは自分のためと、祭司たちのために備えをした。アロンの子孫である祭司たちは、燔祭と脂肪をささげるのに忙しくて、夜になつたからである。それでレビびとは自分たちのためと、アロンの子孫である祭司たちのために備えたのである。五アサフの子孫である歌うたう者たちは、ダビデ、アサフ、ヘマンおよび王の先見者エドンの命に従つてその持ち場におり、門衛たちはおのおの門にいて、その職務を離れるに及ばなかつた。兄弟であるレビびとが彼らのために備えたからである。

一六このようにその日、主の勤めの事がことごとく備わつたので、ヨシヤ王の命に従つて過越の祭を行い、主

の祭壇に燔祭をささげた。一七ここに來ていたイスラエルの人々は、そのとき過越の祭を行い、また七日の間、種入れぬパンの祭を行った。一八預言者サムエルの日からのかた、イスラエルでこのような過越の祭を行ったことはなかった。またイスラエルの諸王のうちには、ヨシヤが、祭司、レビびと、ならびにそこに來たユダとイスラエルのすべての人々、およびエルサレムの住民と共に、行ったような過越の祭を行った者はひとりもなかった。一九この過越の祭はヨシヤの治世の第十八年に行われた。二〇このようにヨシヤが宮を整えた後、エジプトの王ネコはエフラテ川のほとりにあるカルケミシで戦うために上ってきたので、ヨシヤはこれを防ごうと出て行った。二一しかしネコは彼に使者をつかわして言った、「ユダの王よ、われわれはお互に何のあずかるところがありますか。わたしはきょう、あなたを攻めようとして來たのではありません。わたしの敵の家を攻めようとして來たのです。神がわたしに命じて急がせています。わたしと共におられる神に逆らうことをやめなさい。そうしないと、神はあなたを滅ぼされるでしょう。三三しかしヨシヤは引き返すことを好まず、かえって彼と戦うために、姿を変え、神の口から出たネコの言葉を聞きいれず、行ってメギドの谷で戦ったが、三三射手の者どもがヨシヤを射あてたので、王はその家來たちに、「わたしを助け出せ。わたしはひどく傷ついた」と言った。三四そこで家來たちは彼

を車から助け出し、王のもっていた第二の車に乗せてエルサレムにつれて行ったが、ついに死んだので、その先祖の墓にこれを葬った。そしてユダとエルサレムは皆ヨシヤのために悲しんだ。二五時にエレミヤはヨシヤのために哀歌を作った。歌うたう男、歌うたう女は今日に至るまで、その哀歌のうちにヨシヤのことを述べ、イスラエルのうちにこれを例とした。これは哀歌のうちにしるされてゐる。二六ヨシヤのその他の行為、主の律法にしるされた所に従って行った徳行、二七およびその始終の行いなどは、イスラエルとユダの列王の書にしるされてゐる。

第三六章 一國の民はヨシヤの子エホアハズを立て、エルサレムでその父に代つて王とならせた。二エホアハズは王となつた時二十三歳で、エルサレムで三月の間、世を治めたが、三エジプトの王はエルサレムで彼を廢し、かつ銀百タラント、金一タラントの罰金を國に課した。四そしてエジプト王は彼の兄弟エリアキムをユダとエルサレムの王とし、その名をエホヤキムと改め、その兄弟エホアハズを捕えてエジプトへ引いて行った。

五エホヤキムは王となつた時二十五歳で、十一年の間エルサレムで世を治めた。彼はその神、主の前に惡を行つた。六時に、バビロンの王ネブカデネザルが彼の所に攻め上り、彼をバビロンに引いて行くとうとして、かせにつないだ。七ネブカデネザルはまた主の宮の器物をバビロンに運んで行って、バビロンにあるその宮殿にそれ

をおさめた。ハエホヤキムのその他の行為、その行った憎むべき事および彼がひそかに行った事などは、イスラエルとエダの列王の書に記されている。その子エホヤキンが彼に代つて王となった。

九エホヤキンは王となつた時八歳で、エルサレムで三月と十日の間、世を治め、主の前に悪を行った。二年が改まり春になつて、ネブカデネザル王は人をつかわして、彼を主の宮の尊い器物と共にバビロンに連れて行かせ、その兄弟ゼデキヤをエダとエルサレムの王とした。

二ゼデキヤは王となつた時二十一歳で、十一年の間エルサレムで世を治めた。三彼はその神、主の前に悪を行い、主の言葉を伝える預言者エレミヤの前に、身をひくくしなかつた。四彼はまた、彼に神をさして誓わせたネブカデネザル王にもそむいた。彼は強情で、その心をかたくなにして、イスラエルの神、主に立ち返らなかつた。五祭司のかしらたちおよび民らもまた、すべて異邦人のものもろの憎むべき行為にならつて、はなはだしく罪を犯し、主がエルサレムに聖別しておかれた主の宮を汚した。

二五その先祖の神、主はその民と、すみかをあわれむがゆえに、しきりに、その使者を彼らにつかわされたが、六彼らが神の使者たちをあざけり、その言葉を軽んじ、その預言者たちをのしつたので、主の怒りがその民に向かつて起り、ついに救うことができないようになった。

二七そこで主はカルデヤびとの王を彼らに攻めこさせられたので、彼はその聖所の家でつるぎをもつて若者たちを殺し、若者をも、処女をも、老人をも、しらがの者をあわれまなかつた。主は彼らをことごとく彼の手に渡された。二八彼は神の宮のもろもの大小の器物、主の宮の貨財、王とそのつかさたちの貨財など、すべてこれをバビロンに携えて行き、二九神の宮を焼き、エルサレムの城壁をくずし、そのうちの宮殿をことごとく火で焼き、そのうちの尊い器物をことごとくこわした。三〇彼はまたつるぎをのがれた者どもを、バビロンに捕えて行つて、彼とその子らの家来となし、ペルシャの国の興るまで、そうして置いた。三一これはエレミヤの口によつて伝えられた主の言葉の成就するためであつた。こうして国はついにその安息をうけた。すなわちこれはその荒れている間、安息して、ついに七十年が満ちた。

三二ペルシャ王クロスの元年に當り、主はエレミヤの口によつて伝えた主の言葉を成就するため、ペルシャ王クロスの靈を感動されたので、王はあまねく國中にふれ示し、またそれを書き示して言つた、三三「ペルシャの王クロスはこう言う、『天の神、主は地上の国々をことごとくわたしに賜わつて、主の宮をエダにあるエルサレムに建てることをわたしに命じられた。あなたがたのうち、その民である者は皆、その神、主の助けを得て上つて行きなさい』」。